



埼玉県小学校教育課程指導・評価資料（道徳）

平成 29 年 3 月

埼玉県教育委員会

まえがき

埼玉県教育委員会教育長
関根 郁夫

平成27年3月、学校教育法施行規則の一部が改正され、「道徳」が「特別の教科道徳」として位置付けられるとともに、小学校及び中学校学習指導要領等の一部改正が告示されました。

これにより、平成30年度から小学校及び特別支援学校小学部、平成31年度から中学校及び特別支援学校中学部で「特別の教科 道徳」の授業が実施されることとなります。

また、従来の道徳から、答えが一つではない道徳的な課題を、一人一人の児童生徒が自分自身の問題として捉え向き合う「考える道徳」、「議論する道徳」へと転換を図り、指導を通じて、道徳的習慣や道徳的行為の意義を理解し、自らの判断により、進んで適切な実践ができる資質・能力を育てることが求められております。

県教育委員会では、これまで学習指導要領の改訂に合わせ、県内の各学校が教育課程を編成する際の拠り所となる「埼玉県教育課程編成要領」を改訂してまいりました。今回の学習指導要領の一部改訂においても、平成28年3月に「埼玉県小・中学校教育課程編成要領（道徳）」を改訂し、各学校へ配布したところです。

今年度は、改訂した「埼玉県小・中学校教育課程編成要領（道徳）」を更に具体化し、各学校においてのより具体的で適切な指導計画の作成や学習指導、評価に資するため、「埼玉県小学校教育課程指導・評価資料（道徳）」を作成いたしました。これまでは指導資料、評価資料と分冊であったものを、カリキュラムマネジメント、指導と評価の一体化の観点から合本し、学習指導要領の趣旨に基づき各学校が指導計画を作成する際の考え方、手順、評価、評価に基づく改善点等を具体的に示しており、各学校にとって貴重な資料になるものと考えております。

本県では、道徳教育の充実を図るため、「第2期 生きる力と絆の埼玉教育プラン」において、「豊かな心と健やかな体の育成」を掲げております。今回、作成した「埼玉県小学校教育課程指導・評価資料」を活用し、県内各小学校において、創意工夫を生かした道徳教育が推進されることを願っております。

結びに、本指導・評価資料の作成に当たり御協力を賜りました、小学校教育課程指導・評価資料作成協力委員会議（道徳）の委員の皆様から感謝を申し上げます。

埼玉県小学校教育課程指導・評価資料 目次

第1 小学校学習指導要領(平成29年3月告示)の趣旨と道德教育	1
1 道德科を位置付けた経緯とそのねらい	1
2 今回の小学校学習指導要領改訂の趣旨と道德教育	1
第2 本資料の活用について	2
1 道德科における指導と評価の一体化について	2
2 本資料の活用にあたって	3
第3 学習指導案(学習指導過程)の作成と評価、改善	4
<教材の登場人物への自我関与が中心の学習指導過程の作成と評価、改善>	5
1 具備しなければならない要件	5
2 具体例(中学年)	6
3 工夫、配慮事項等	6
4 本学習指導過程に基づく指導における評価	7
5 評価に基づく改善のポイント	7
6 改善した本学習指導過程の例	8
7 考察	8
<問題解決的な学習過程の作成と評価、改善>	9
1 具備しなければならない要件	9
2 具体例(高学年)	9
3 工夫、配慮事項等	10
4 本学習指導過程に基づく指導における評価	10
5 評価に基づく改善のポイント	11
6 改善した本学習指導過程の例	11
7 考察	12
<道徳的行為に関する体験的な学習指導過程の作成と評価、改善>	12
1 具備しなければならない要件	12
2 具体例(低学年)	13
3 工夫、配慮事項等	14
4 本学習指導過程に基づく指導における評価	14
5 評価に基づく改善のポイント	14
6 改善した本学習指導過程の例	15
7 考察	16
第4 年間指導計画の作成と評価、改善	17
1 具備しなければならない要件	18
2 具体例(第4学年の例)	18
3 工夫、配慮事項等	19
4 年間指導計画に基づく指導における評価	22
5 評価に基づく改善のポイント	23
6 改善した年間指導計画の例	23
7 考察	23
第5 全体計画の作成と評価、改善	24
1 具備しなければならない要件	25
2 具体例(一覧表)(別葉一指導時期から見た別葉一)(別葉一内容項目から見た別葉一)(学級における指導計画)	26
3 工夫、配慮事項等	28
4 全体計画に基づく指導における評価	29
5 全体計画をより実効性の高いものにするために	30
<各学校が課題を解決するための具体的な視点を持った取組の全体構想や実施計画案>	30
(1)規範意識を高める道德教育	30
ア 全体構想	30
イ 「規範意識を高める道德教育」に具備しなければならない要件	30
ウ 一つの内容項目を複数の時間で扱う指導	31
エ 重点目標に関わる内容項目を明確にした指導	32
(2)体験活動を生かした道德教育	34
ア 全体構想	34
イ 「体験活動を生かした道德教育」に具備しなければならない要件	34
ウ 総合的な学習の時間における体験活動の例	35
エ 特別活動(学校行事:集団宿泊的行事)における体験活動の例	36
(3)家庭や地域社会との連携を重視した道德教育	38
ア 全体構想	38
イ 家庭や地域社会との連携を重視した道德教育の評価	39
ウ 参考	39
6 考察	39
参考 通知表、指導要録に記載する道德科の評価欄の記入例	40

第1 小学校学習指導要領（平成29年3月告示）の趣旨と道徳教育

1 道徳科を位置付けた経緯とそのねらい

平成25年2月26日、教育再生実行会議は、いじめ問題等を未然に防止するためには道徳教育の充実が必要であり、そのために道徳を新たな枠組みにより教科化して、指導内容を充実し、効果的な指導方法を明確にすることが重要であると第一次提言で述べた。このことを受け、道徳教育の充実に関する懇談会、中央教育審議会の審議を経て、平成27年3月、文部科学省は学校教育法施行規則及び小学校学習指導要領を一部改正し、「道徳」を「特別の教科である道徳」（道徳科）と位置付けた。そして、発達段階に応じ、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の児童が自分自身の問題と捉え、向き合う「考える道徳」「議論する道徳」へと転換を図ることとした。

これは、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の要としての道徳科の指導の充実を図り、自他の生命を尊重し、自己肯定感を高め、他者への思いやり、規範意識、自主性や責任感などの人間性・社会性を育み、いじめ問題等の未然防止につながる実効性のある道徳教育を展開しようとするためである。

この改正された小学校学習指導要領は、すでに平成27年4月1日から移行措置として、その一部又は全部を実施することが可能になっており、平成30年4月1日から全面実施される。

ここで改めて、平成27年7月に公表された小学校学習指導要領解説特別の教科道徳編で指摘されたこれまでの道徳教育の課題を具体的に挙げ、その改善にしっかりと取り組んでいく必要があることを確認しておきたい。

- ・歴史的経緯に影響され、いまだに道徳教育そのものを忌避しがちな風潮があること
- ・他教科に比べて軽んじられていること
- ・読み物の登場人物の心情理解のみに偏った形式的な指導が行われる例があること

2 今回の小学校学習指導要領改訂の趣旨と道徳教育

これからの社会は、グローバル化の進展や人工知能の飛躍的な進化などにより、加速度的に変化していくものと予想される。将来どのような社会になるのかを予測することは極めて難しいと言わざるを得ない。我々は、このような時代・社会の中でも、伝統や文化に立脚した広い視野を持ち、志高く未来を創り出し、たくましく生き抜いていく人間を育てていかなければならない。これからの教育は、そのために必要な資質・能力を子供たちに確実に育てていくことが求められる。

子供たちに必要な資質・能力とは、以下の三つの柱に沿って具体的に捉えることが必要である。

- ①生きて働く「知識・技能」の習得
- ②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成
- ③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養

これらの資質・能力を育むために、「学び」の本質として重要となる「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が大切である。

そのため、今回の小学校学習指導要領の改訂は、これまでの中心であった「何を学ぶか」という指導内容の見直しにとどまらず、「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」までを見据えた改善となった。

主体的・対話的で深い学びの実現とは、「何ができるようになるか」という子供たちに必要な資質・能力を育成するために、「何を学ぶか」という子供たちに必要となる資質・能力を踏まえた学習内容と、「どのように学ぶか」という学びの過程を組み立てて改善を目指したものである。主体的な学びとは、学習活動を見通し、振り返り、課題を解決していこうとすることである。対話的な学びとは、学び合いなど他者と協働すること等によって、多様な見方・考え方を学ぶことである。深い学びとは、学んだことを生かして、自分なりの次の課題を見つけることである。これらの学びが実現するように授業を組み立てていくことが重要である。

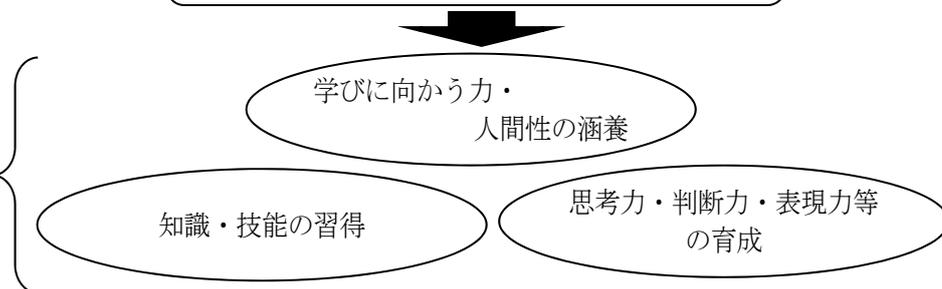
【何を学ぶか】

小学校学習指導要領に示された目標・内容

【どのように学ぶか】

主体的・対話的で深い学び
の実現に向けた授業改善

【何ができるようになるか】



平成27年3月の道徳の改訂により、道徳科の目標は「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため」として、学校の教育活動を通じて行う道徳教育の目標と同一であることを分かりやすく明らかにした。その上で、「道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」と道徳科で育成すべき資質・能力を明確にした。

これは、今回の小学校学習指導要領の改訂の趣旨である、これからの社会を生き抜いていく上で必要な資質・能力を子供たち一人一人に確実に育む学校教育の実現を目指すという基本方針を先取りしたものである。すなわちこれまでの中心であった「何を学ぶか」という指導内容にとどまらず、「考え、議論する道徳」（どのように学ぶか）「主体的な判断に基づいた道徳的实践ができる」（何ができるようになるか）までを見据えた改善である。道徳科の授業において「主体的・対話的で深い学び」を実現するために改善を図るとともに、道徳教育を通じて、児童生徒の「学びに向かう人間性」を涵養することが重要である。

さらに、資質・能力の三つの柱と道徳科の関係を具体的に捉えれば、道徳科の目標である「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して」の記述を三つの柱に分節することはできないものの、次のような部分を重視するといった整理が考えられる。

「知識・技能」：道徳的諸価値についての理解

「思考力・判断力・表現力等」：物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める

「学びに向かう力・人間性」：よりよく生きるための基盤となる道徳性、自己を見つめ、自己の生き方についての考えを深める

このことを十分に踏まえつつ、道徳科の授業を「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて「考え、議論する道徳」へと質的転換を図り、意識して実践することが大切である。

第2 本資料の活用について

本資料は、道徳科及び道徳教育の一層の充実を図るために、道徳科学習指導案、道徳科の年間指導計画、道徳教育の全体計画について、その作成と評価、改善について、各学校の参考に資するために作成したものである。

1 道徳科における指導と評価の一体化について

- 道徳教育において、その充実を図るためには、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の要としての道徳科の指導と評価の一体化を図ることが極めて重要である。
- 道徳科においても、他の教科等と同様に、計画、実践、評価という一連の中で、繰り返しながら指導に生かす評価の充実を図り、児童の道徳性の育成を目指していかなければならない。
- 道徳科の評価においては、道徳科の目標に規定されている学習活動「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して」を行う授業であることが前提である。つまり、次の学習活動が意図的に行なわれていなければならない。

- ・道徳的諸価値を理解する
- ・自己を見つめる
- ・物事を多面的・多角的に考える
- ・自己の生き方についての考えを深める

○道徳科における評価は、「児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。ただし、数値等による評価は行わないものとする」（「第3章特別の教科 道徳」の「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」の4）と記されている。つまり、道徳科においては、次の2点を評価する。

- ・道徳科の授業での児童の学習状況
- ・道徳科の授業を通して把握できる児童の道徳性に係る成長の様子

○具体的には、道徳科の授業での児童の発言や会話、作文・感想文やノートなどを通じて、次の点から把握し、特に顕著と認められる状況を記述しておく。

- ・友達の考え方に触れ、自ら思考する中で、一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか
 - ・多面的・多角的な思考の中で、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか
- それには、児童のノートや感想等をファイルした資料も活用し、年間35時間の授業という期間で見取っていくなど工夫が必要である。

○この評価により、児童は、自らの成長を実感し、意欲の向上につなげていき、教師は自らの道徳科の目標や学習指導過程、指導の諸方法を見直し改善、充実に取り組みものでなければならない。

○道徳科の充実を図るために、学習指導案のうち特に学習指導過程の評価と改善が重要である。

○道徳科の年間指導計画の見直しは、道徳科における評価の蓄積を基に図ることを基本とする。

○道徳教育の全体計画に基づく学校の教育活動全体を通して行う道徳教育の評価についても、児童の実態を評価するとともに、道徳科において評価する児童一人一人の道徳性に係る成長の様子を蓄積を基に行うことが大切である。

2 本資料の活用にあたって

○本資料は、道徳科学習指導案（特に学習指導過程）、道徳科の年間指導計画、道徳教育の全体計画の作成と評価、改善について、以下の項目を挙げて説明している。

- 1 具備しなければならない要件
- 2 具体例
- 3 工夫、配慮事項等
- 4 本計画に基づく指導における評価
- 5 評価に基づく改善のポイント
- 6 改善した計画の具体例
- 7 考察

・作成段階の資料として記載されている項目は、1～3である。

1 について：作成段階において書かれていなければならない内容や備えておかななければならない要件である。これは計画等の形式的な評価の観点でもある。書かれていなければ計画等の不備であり改善しなければならない。

3 について：作成に当たり工夫や配慮しなければならない内容である。ここに書かれていることを踏まえ計画等を作成することが重要である。

・評価段階の資料として記載されている項目は、4である。

・改善段階の資料として記載されている項目は、5、6である。

5 について：評価を基に、どのように改善を図ることが必要であるか書かれている。

・全体を通して、改めて考えておかななければならないことを記載しているのが、7の考察である。

○本資料を活用し、計画等を軸に道徳科及び道徳教育の改善・充実の好循環を生み出す「カリキュラム・マネジメント」の促進を図ることが重要である。道徳科及び道徳教育を一層充実させるためには、計画等を作成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立することが必要である。

第3 学習指導案（学習指導過程）の作成と評価、改善

「道徳科の指導（学習指導過程）について」

〈道徳科の特質を押さえる〉

道徳科は、児童一人一人が、ねらいに含まれる一定の道徳的価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して内面的資質としての道徳性を主体的に養っていく時間である。

（小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 P75）

〈目指す学習〉

授業改善を目指す！

「子供たち自身が人間としてよりよい生き方を求め、生きていく上で必要な事柄（道徳的価値）

ために、子供たちが主体となって学び合える学習。

学校の指導方針や子供の発達の段階や特性、

多様な
指導方法の
工夫が必要

実態等を考慮し、指導のねらいに即して行う

問題解決的な
学習

道徳的行為に関する
体験的な学習

登場人物への
自我関与が中心の学習

※ これら是一例であり、限定された指導方法ではない。指導観・児童観・教材観に基づき、適切な指導方法を選択しながら工夫していくことが重要である。

配慮すること

- ☆ 一人一人が伸び伸びと、安心して自由に発言できる（発言したくなる）雰囲気を日常の学級経営の中で醸成していく。
- ☆ 自分達にとって切実な道徳的な問題について、多様な観点から根拠をもって考えられるようにする。
- ☆ 一人一人の考え方や感じ方を大切にするとともに、異なる考え（価値観）をもつ人と話し合う場面を設定し、自分とは異なった考えに接する中で自分の考え方や感じ方を明確にさせていく。
- ☆ 道徳的価値について、どのように捉え、どのような葛藤があるのか、また道徳的価値を実現することにどのような意味を見いだすことができるのかなどについて、自分との関わりにおいて捉えられるようにする。
- ☆ 相反する道徳的価値のどちらか一方の選択を求められる場合、多くは正解が存在しないので、こうした問題には多面的・多角的に考察し、問題解決的な学習を取り入れることが有効である。

道徳科の授業の充実が極めて重要である。そのためには、授業のねらいの検討、教材の吟味等を通して、よりよい学習指導案を作成しなければならない。

学習指導案の形式及び作成のポイントは、「埼玉県小・中学校教育課程編成要領（道徳）」（平成28年3月）に示されている「学習指導案」によるものとする。ここでは、よりよい学習指導案を作成するために必要な指導資料、及び評価資料を提供するものである。

確認としてまず、道徳科の授業として具備しなければならない要件を挙げる。その上で、道徳科の授業がどのように行われるかを記載する学習指導過程の作成と評価・改善について述べていく。

<道徳科の授業として具備しなければならない要件>

- | | |
|---|---|
| ① | 年間指導計画に位置付けられた主題を取り上げる。 |
| ② | 児童や発達の段階、学級の実態に応じて、教師の創意工夫を生かす。 |
| ③ | 本時のねらいを踏まえ、適切な発問や指導方法等を用意し授業時間を考慮して配置する。 |
| ④ | 道徳科の目標を踏まえ、次の5点を意識して授業を組み立てる。 |
| | ○道徳的諸価値の理解 |
| | ・価値理解
(内容項目を人間としてよりよく生きる上で大切であると理解すること) |
| | ・人間理解
(道徳的価値は大切でもなかなか実現できない人間の弱さ等を理解すること) |
| | ・他者理解
(道徳的価値についての感じ方、考え方は一つではない。多様であると理解すること) |
| | ○自己を見つめる (自分自身の問題として受け止める) |
| | ○物事を多面的・多角的に考える (多様な考え方や感じ方に触れる) |
| | ○自己の生き方についての考えを深める
(生き方の課題を考え、それを自己の生き方として実現しようとする思い・願いを深める) |
| | ○道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる |

<教材の登場人物への自我関与が中心の学習指導過程の作成と評価、改善>

教材の登場人物の判断や心情を自分との関わりにおいて多面的・多角的に考えることを通し、道徳的諸価値の理解を深めることについて効果的な指導方法であり、登場人物に自分を投影して、その判断や心情を考えることにより、道徳的価値の理解を深めることができる。

1 具備しなければならない要件

- ① 児童が登場人物に共感し、自分を投影しやすい教材
- ② 教材の登場人物に自分を投影して、その判断や心情を考えさせる発問
- ③ 道徳的価値を自分との関わりで捉えたり、交流して自分の考えを深めたりする発問
- ④ 自分が今どのような考え方や感じ方をしているのか気付かせ、自覚を促す学習活動
- ⑤ 自分を素直に語れるような学習環境づくり

<基本的な学習指導過程>

導 入	本時の学習へ関心に向ける ・本時の主題に関わる問題意識をもつ ・教材に興味や関心をもつ ・学習の雰囲気をつくる
展 開	教材を読んで考える ・登場人物への共感を促す発問 ・登場人物の判断や心情を類推する発問 ・児童の発言を整理し、比較したり検討したりする活動（話し合い等） ・自分の生き方についての考えを深める発問や活動
終 末	本時の学習をまとめる ・教師の説話 ・学習を振り返り、自分の考えをまとめる

2 具体例 (中学年)

- ① 主題名 みんなで楽しい学級を
内容項目 【C よりよい学校生活, 集団生活の充実】
- ② ねらい 進んで学級のために働くことについて多様な感じ方や考え方を出し合い、その話合いを通して、みんなで協力し合うことで明るく活力あふれる楽しい学級をつくっていただけることを理解し、積極的に集団の活動に参加しようとする態度を育てる。
- 教材名 ハッピースマイル (出典「彩の国のどうとく みんななかよし」埼玉県教育委員会)

③ 学習指導過程

段階	学習活動・主な発問	予想される児童の発言	指導上の留意点 ☆評価の観点
導入	1 教材への関心を高める。 ○自分たちの学級目標を言いましょ。4月に、どんな気持ちでこの目標を決めましたか。	<p>1 具備しなければならない要件①</p> <ul style="list-style-type: none"> みんなで仲よく、楽しいクラスにしたいと思って決めた。 いいクラスにしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの学級目標の話題から、本教材の学級でも目標とする合言葉があることにつなげていく。
	2 教材を読み考える。 ○昼休みの始めにそのままになっている配膳台を見つけたのは、どんな気持ちでしょうか。	<p>1 具備しなければならない要件⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> だれも片付けなくていいのかな。 ドッジボールが始まっちゃう。 私は自分の仕事をした。 係の人が休みだから仕方がない。 誰かがやればいいのに。 	<ul style="list-style-type: none"> 配膳台に気付いたものの、自分の仕事ではないので見て見ぬふりをした主人公の気持ちに共感させる。
展開	○青木先生の言葉を聞き、 <u>うつむいているときは、どんなことを考えているのでしょうか。</u>	<p>1 具備しなければならない要件③</p> <ul style="list-style-type: none"> 面倒くさいなあ。 自分の仕事はしたのに、なぜやらなくてはいけないの。 私が片付けようかな。 	<ul style="list-style-type: none"> うつむいている主人公の内面を出し合うことで、多様な角度から主人公の考えや心情を考えさせる。 ☆自分がやるべきかどうか悩んでいるのは、内面を考えたことができたか。
	○配膳台を片付けているみんなが笑顔になったのは、どうしてでしょうか。	<p>4 本学習指導過程に基づく指導における評価①②に示す内容をこの中で見取っていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> みんなで協力して片付けられたから。 配膳台がきれいになって気持ちがいいから。 みんなの合言葉が達成できて嬉しいから。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆みんなで協力し合ってクラスのために働く、明るく楽しいクラスをつくっていただけることを理解できたか。
終末	5 教師の説話を聞く。		<ul style="list-style-type: none"> みんなで協力し合い、明るく活力あふれる楽しい学級をつくっていただく意欲を育てる。

3 工夫、配慮事項等

- ① 導入は、教師の意図が生かせるよう様々に工夫するとよい。
- 生活体験の想起、発表
 - 事前アンケートの結果の提示
 - 教材に関する場面絵や写真、VTR
 - 音楽を聴く
 - ねらいに関わる新聞記事、児童の作文、詩や短歌
 - 地域の人々の話
 - 実物に触れる体験 など
- ② 展開は、登場人物の心情理解のみの指導になってはならない。登場人物に自分を重ね、判断や心情を共感的に捉えたり、投影的に捉えたりする。
- 主人公は〇〇のとき、どんな気持ちでしょうか。

- ・主人公は〇〇のとき、どんなことを考えたでしょうか。
- ・主人公は〇〇のとき、どう行動するでしょうか。あなたは、どうしてそう思うのですか。
- ③ 自己の生き方について考えを深めるために、あえて展開段階に後段をおき、自己を見つめさせることも考えられる。
- ④ 終末は、本時の学習に余韻をもたせたり、自分なりの考えを再構築したりできるよう工夫するとよい。
 - ・教師による説話。
 - ・本時のねらいとする道徳的諸価値について、自分なりの考えをまとめる。
 - ・感想を聞き合ったり、ワークシートへ記入したりして、学習で気付いたこと、学んだこと等を振り返る。
 - ・本時で学習したことを今後に生かそうとする意欲を高める。
- ⑤ 自己を登場人物に投影しやすくするよう場面絵や役割演技を工夫する。
- ⑥ 自己の生き方についての考えが深まるよう、話し合いを工夫する。

4 本学習指導過程に基づく指導における評価

- ① 児童の学習状況の評価
 - ・自分を主人公に託して自らの気持ちや考えを語っていたか。(人間理解)
 - ・多様な感じ方や考え方を基に、自分の感じ方や考え方が明確になったり新しい価値観に気付いたりすることができたか。(価値理解)
 - ・友達の発言のよさや自分との違いに気付いたか。(他者理解)
- ② 児童の道徳性に係る成長の様子

評価の観点を予め用意しておき、中心発問等での児童の発言を教師が読み取っていくことが重要である。その際、「どの発言がよいか」というのではなく、「児童を理解していく」という姿勢で児童の発言を捉えていかなければならない。

例えば、児童の発言を「他律」「社会律」「自律」の3つの観点から捉えていくことも考えられる。本時の例で言えば、次のような表を用意しておき、記録していくとよい。

	発言例	児童名
自律	<ul style="list-style-type: none"> ・困った時には進んで支え合わないと、気持ちよく生活できないから。 ・一人ひとりが進んで行動すれば、ハッピースマイルでいられるから。 	児童A 児童B など
社会律	<ul style="list-style-type: none"> ・学級の合言葉で「みんなもいい。」ことをやると決まっているから。 ・早く片付けないと授業が始まらないから。 ・みんなが困るから、私が片付けよう。 	
他律	<ul style="list-style-type: none"> ・誰かが片付けなければ先生に怒られる。 ・私は自分の仕事をしたのに、どうしてやらなければいけないのかな。 	

※ 上記の観点から、児童の発言や記述等を観察して記録しておく。

5 評価に基づく改善のポイント

- ① 「児童の学習状況の評価」の視点から
 - ・自分を主人公に託して発言する様子があまり見られなかった。
 - ⇒ア 場面絵を用いて、自己投影しやすくする。
 - ・中心発問において、「しぶしぶ片付ける」「片付けない」という主人公の気持ちに共感する発言が多く、多様な考えが出なかった。
 - ⇒イ 「進んで片付ける」という気持ちを提示し、改めて主人公に託して考えさせ、道徳的価値に支えられた自己にも気付かせ、自己を語らせるようにする。
- ② 「児童の道徳性に係る成長の様子」の視点から
 - ・片付ける理由として「怒られるから」「クラスの合言葉で決まっているから」等の、他律的・社会的な発言が多く見られた。
 - ⇒ア 「片付けない」という立場のほか、片付ける理由を2つに分け、違いを比較することで、「よりよい学校生活とは何か」を多面的に捉えられるようにする。必要に応じ教師から自律的な考え方を提示する。

6 改善した本学習指導過程の例

段階	学習活動・主な発問	予想される児童の発言	指導上の留意点 ☆評価の観点
導入	1 教材への関心を高める。 ○自分たちの学級目標を言 いましょう。4月に、どん な気持ちでこの目標を決 めましたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなで仲よく、楽しいクラ スにしたいと思って決めた。 ・いいクラスにしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの学級目標の話題か ら、本教材の学級でも目標とす る合言葉があることにつなげて いく。
展開	2 教材を読み考える。 ○昼休みの始めにそのまま になっている配膳台を見 つけたのは、どんな気 持ちでしょうか。 ○青木先生の言葉を聞き、う つむいているときのはる かは、どんなことを考えて いるでしょうか。 [補助発問] この三つの私は、何が違う のでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・だれも片付けなくていいのか な。 ・ドッジボール ・私は自分の仕事を <p>5 評価に基づく改善の ポイント①のイ</p> <p>A 片付けない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私は自分の仕事をちゃんとやった。 ・誰かがやればいい。 ・面倒くさいなあ。 <p>B しぶしぶ片付ける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰かがやらなければ終わらな いから。 ・先生に怒られるから。 <p>C 進んで片付ける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わたしもクラスの一員だから。 ・みんなで決めたハッピースマ イルを実現したい。 <ul style="list-style-type: none"> ・A は自分のことしか考えてい ない。人任せな感じがする。 ・B は片付けるけれど、嫌々や っている感じがする。 ・C のように行動すると、自分 もみんなも気持ちがよくな る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・配膳台に気付いたものの、自 分の仕事ではないので見て見 した主人公の気持ち せる。 ・場面絵を注視させ、うつむい ている主人公の内面を出し合 うことで、主人公の考えや心 情を多角的に考えさせる。 ・立場を三つに分け、その動機 に着目した話合いをさせる。 ☆自分がやるべきかどうか悩ん でいるはるかの内面を考 えることができたか。 <p>5 評価に基づく改善の ポイント②ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理由の違いを比較することで 「よりよい学校生活」を多 面的に捉えられるようにする ・自分の仕事は果たしたのに、 どうしてほかのこともやろう とするのかを聞き返し、クラ スのために進んで働くこと のよさを考えさせる。 ☆みんなで協力し合っ てクラスのために働くと、 明るく楽しいクラスをつ くっていきけることに 気が付いたか。

7 考察

これまでの長年にわたる道徳の時間の研究に基づく読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習指導過程において改めて確認しておかなければならないことは、「自我関与になっていたか」ということである。登場人物の心情や考えを自分とのかかわりで考え、登場人物に託して児童が自分自身を語っていくという授業でなければならない。登場人物の心情を理解することが道徳科の授業のねらいではないことを、しっかりと確認し理解しておくことが大切である。

その上で、教材の登場人物への自我関与が中心の学習指導過程にこだわりすぎることなく、問題解決的な学習を取り入れた学習指導過程や道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れた学習指導過程などによる道徳科の授業を実施するとよい。また、それぞれの学習指導過程の要素を組み合わせた指導を行うなど、学習指導過程を柔軟に考えていくことが重要である。

<問題解決的な学習指導過程の作成と評価、改善>

児童一人一人が生きていく上で出会う様々な道徳的諸価値に関わる問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養うことができる。問題場面について児童自身の考えの根拠を問う発問や、問題場面を実際の自分に当てはめて考えてみることを促す発問、問題場面における道徳的価値の意味を考えさせる発問などによって、道徳的価値を実現するための資質・能力を養うことができる。

1 具備しなければならない要件

- ① 道徳的価値に関わる問題場面や明確な課題のある教材
- ② 問題解決を促すための発問
 - ア 問題場面についての児童自身の考え、その根拠を問う発問
 - イ 問題場面を実際に自分に当てはめて考えてみることを促す発問
 - ウ 問題場面における道徳的価値の意味を考えさせる発問 など
- ③ 問題解決に向けて、他者との対話や協働する学習活動
- ④ 自分とは異なる意見と向かい合う学習活動

<基本的な学習指導過程>

導 入	道徳的な問題意識をもつ ・教材や日常生活から道徳的な問題を見つける ・道徳的価値の本当の意味への問いをもつ
展 開	教材を読んで多面的・多角的に考え、話し合っ自分の考えを深める ・道徳的な問題場面について児童の考え、その根拠を問う発問 ・問題場面を実際の自分に当てはめて考えてみることを促す発問 ・多様な考え方や感じ方を基に問題解決に向けて話し合う学習活動 ・問題場面における道徳的価値の意味を考えさせる発問 ・問題の探究を振り返って、新たな問いや自分の課題を導き出す学習活動
終 末	本時の学習をまとめる ・学習を振り返り、道徳的な問題についての自分の考えをまとめる。 ・本時で学習したことを今後に生かそうとする意欲を高める。

2 具体例 (高学年)

- ① 主題名 本当の自由とは何か 【A 善悪の判断、自律、自由と責任】
- ② ねらい 「本当の自由」について、自分自身の考えを出し合い、話し合う活動を通して、自由に行動することのよさや自由の意義を理解し、自律的で責任ある行動をとろうとする態度を育てる。
- 教材名 うばわれた自由 (出典「私たちの道徳 小学校五・六年」 文部科学省)

③ 学習指導過程

段階	学習活動・主な発問	1 具備しなければならない要件①	指導上の留意点 ☆評価の観点
導 入	1 「自由について」の事前アンケートの結果を知る。		・ねらいとする道徳的価値についての問題意識をもたせる。
		「本当の自由」とはどういうことなのだろうか。	
展 開	2 教材「うばわれた自由」を講義する。 3 道徳的な問題について話し合う。 ○ガリユーのいう「自由」とジェラル王子のいう「自由」とは、どのように違いますか。	1 具備しなければならない要件③④ <ジェラル王子> ・自分勝手な自由。 ・人のことを考えていない自由。 <ガリユー> ・きまりを守った上での自由。 ・人のことを考えている自由。 ・きまりを守りながら生活する。 ・自分勝手な行動 ・自由な行動をとる責任が伴うこと。	・登場人物、条件、状況についておさえる。 ・小グループでの話し合いをすることで、ジェラル王子とガリユーの「自由」に対する見方や考え方の違いについて比較検討することにより道徳的価値を多面的・多角的に考えさせる。
		1 具備しなければならない要件②のア	4 本学習指導過程に基づく指導における評価①をこの中で見取っていく。

	○牢屋に残されたジェラルール王子が考えた「本当の自由」とはどんな自由なのだろうか。		・ワークシートに自分の考えを書かせた後、全体で意見交流をする。 ☆自分勝手な行いを改め、周りの人のことを考え、責任をもって行動することが大切であると捉えることができたか。
	1 具備しなければならない要件②のウ	4 本学習指導過程に基づく指導における評価②をこの中で見取っていく。	
終末	4 この学習を通して学んだことは何かを考える。		・自律的で責任ある行動をとろうとする意欲を高める。

3 工夫、配慮事項等

- ① 導入では、本時の問題解決的な学習が、問題場面の解決を図る方向で授業を進めるのか、道徳的価値の本当の意味を考えさせる方向で授業を進めるのかを明確にした上で、ねらいとする道徳的価値についての問題意識をもたせることが重要である。
 - ・生活体験の想起、発表
 - ・事前アンケートの活用
 - ・ねらいに関わる新聞記事、児童の作文
 - ・地域の人々の話
 - ・実験や観察など実物にふれる体験など
- ② 考える必然性や切実感をもたせ、児童自身の考えを引き出し、多様な考え方の中で改めて自分の考えをもたせるような発問の仕方を工夫する。
 - ・主人公が～したことを、あなた（児童自身）はどう思うのか。
 - ・主人公が～したことには、どんな意味があるのだろうか。
 - ・そのことが、なぜ問題になるのか。
 - ・解決するためにはどのように考え行動すればよいのか。その根拠は何か。
- ③ 多面的・多角的に考える中で自己の生き方についての考えが深まるように、話し合いを工夫する。
 - ・ペアやグループ・討論会形式等の学習形態の工夫
- ④ 学習を振り返って、新たな問いや自分の課題を見つける。

4 本学習指導過程に基づく指導における評価

- ① 児童の学習状況の評価
 - ・道徳的な問題意識をもっていたか。
 - ・何が道徳的な問題となっているか理解していたか。
 - ・道徳的な問題場面について、どのように考えると解決できるか自分の考えをもっていたか。
 - ・道徳的価値の意味を改めて考えていたか。
 - ・多様な考え方や感じ方を基に問題解決に向けて積極的に話し合っていたか。
 - ・他者と考えを深める中で新たな道徳的価値や考え方を発見したり、新たな問いや自分の課題を見つけ出したりしていたか。

② 児童の道徳性に係る成長の様子

評価の観点を予め用意しておき、中心発問等での児童の発言を教師が読み取っていくことが重要である。その際、「どの発言がよいか」というのではなく、「児童を理解していく」という姿勢で児童の発言を捉えていかなければならない。

例えば、児童の道徳性の発達が、他律から自律へ向かうことを踏まえて、児童の発言を「他律的」「自律的」の観点から捉えていくことも考えられる。本時の例で言えば、次のような表を用意しておき、記録していくとよい。

道徳性	ワークシートへの記述、発言の内容	児童名
自律的 ↑ 他律的	<ul style="list-style-type: none"> ・自由を大切にし、きまりを守りながら、責任ある行動をして、みんなが気持ちよく生活できるようにする。 ・自由を大切にして、みんなに迷惑をかけないようにする。 ・きまりを守った上での自由を大切にする。 ・みんなが困るから自由ばかりを言わないようにする。 ・自分勝手でなく、自由に行動する。 ・人に迷惑をかけなければ、自分のしたいように行動する。 ・自由だから自分のしたいように行動する。 	児童A 児童B など

5 評価に基づく改善のポイント

①「児童の学習状況の評価」の視点から

- ・道徳的価値の意味について発言する様子があまり見られなかった。
⇒ア ガリューとジェラル王子の自由についての考え方が違うことを確認した上で考えさせるようにする。
まず小グループでガリューとジェラル王子の自由についての考え方の違いを話し合わせ、自分なりにその違いを明確にさせる。その上で、ガリューとジェラル王子の自由についての考え方に対する児童自身の考えをもたせ、その後、もう一度小グループで意見交換をしながら、児童自身の自由についての考えをしっかりともたせるようにする。
- ⇒イ 教師は、児童の発言を受け止めながら、「ジェラル王子の自由は、「本当の自由」と言えるのか」「ガリューのいう自由は、「本当の自由」と言えるのか」と繰り返し投げかけ、考えさせるようにする。

②「児童の道徳性に係る成長の様子」の視点

- ・「本当の自由とはどんな自由なのか。」の発問に対して、「自由を大切にし、きまりを守りながら、責任ある行動をして、みんなが気持ちよく生活できるようにしたい。」等の、自律的で責任ある行動へとつながるような記述内容が少なかった。
⇒ア 自由を自分勝手と混同している考えや、人に迷惑をかけなければ自分のしたいように行動してよいとする考え等もしっかりと出させ、その上で、自由にも制約があるという考えや、自由には責任が伴うという考え等を出させることで、多様な考え方を基に多面的・多角的に考えられるようにする。
- ⇒イ 終末で書く活動を取り入れ、「本当の自由」についてじっくり考えさせる時間をとるようにする。

6 改善した本学習指導過程の例

段階	学習活動・主な発問	予想される児童の発言	指導上の留意点 ☆評価の観点
導入	1 「自由について」の事前アンケートの結果を知る。		・ねらいとする道徳的価値についての問題意識をもたせる。
		「本当の自由」とはどのようなことなのだろうか。	
展開	2 教材「うばわれた自由」を読み、考える。 3 道徳的価値の本当の意味について話し合う。 ○ガリューのいう「自由」とジェラル王子のいう「自由」とは、どのように違うのだろうか。 ○ガリューとジェラルの自由についての考え方に対して、みなさんは、どのような考えをもちましたか。 [補助発問] <u>ガリューのいう自由は、「本当の自由」と言えるのか。</u> <u>ジェラル王子のいう自由は「本当の自由」と言えるのか。</u>	<ジェラル王子> ・自分勝手な自由。 ・人のことを考えない自由。 ・自由だが無責任。 <ガリュー> ・きまりを守った上での自由。 ・人のことを考えている自由。 5 評価に基づく改善のポイント①のア ・ジェラル王子は、みんなに迷惑をかける自由だと思う。 ・ジェラル王子のように生活したら、正直、楽しいと思う。 ・みんながジェラル王子みたいだと大変なことになる。 ・ガリューの自由は、自由らしくない。 ・窮屈な感じがする。 5 評価に基づく改善のポイント①のイ	・登場人物、条件、状況についておさえる。 ・登場人物のガリューとジェラル王子の自由についての考え方が大きく違うことを伝え、その違いに着目して範読を聞くよう指示する。 ・本時の問題解決的な学習は、自由の本当の意味を考えさせる方向で進めることを明確にする。 ・まず小グループで二人の考え方の違いを話し合わせ、児童一人一人が自分なりにその違いを明確にしてから発表させる。 ・多様な意見を受け入れる雰囲気の中で、児童自身の考えを発表させていく。 ・その際、補助発問を適時に投げ掛け、考えを深めさせていく。 ☆自分なりの考えを明確にもち、発表している。

	<p>○「本当の自由」とは、どういうことなのでしょう。</p> <p>4 自己を見つめ、自己の課題を発見する。</p> <p>○みなさんは、どんな時に自由という言葉を使っていましたか。</p> <p>○本当の意味での自由を実現したことはありますか。それは、どんな時ですか。</p>	<p>5 評価に基づく改善のポイント①のア</p> <p>5 評価に基づく改善のポイント②のア</p> <ul style="list-style-type: none"> 自由を大切にし、きまりを守りながら責任ある行動をしていくことだと思う。 みんなが気持ちよく生活ができるように自分勝手にしないような自由だと思う。 ゲームを続けたいとき。 勉強がしたくないとき。 自由勉強。 自由時間。 	<ul style="list-style-type: none"> もう一度小グループで話し合わせ、その過程で自分なりの「自由」に対する考えをしっかりと持たせ、その後、発表させる。 自由を都合よく捉える考えを出させた上で、制約や責任が伴う考えも出させ、多面的・多角的に考えさせる。 ☆自分勝手な行いを改め、周りの人のことを考え、責任をもって行動していくことが大切であると捉えることができたか。 自由を自分勝手に同じものと考えていなかったか、自分のこれまでの生活を振り返らせる。 児童の様子を見て、必要に応じて小グループで話し合わせる。
<p>終末</p>	<p>5 学習を振り返る。</p> <p>○今日、学習したことを基に、考えたことを書きましょう。</p>	<p>5 評価に基づく改善のポイント②のイ</p>	<ul style="list-style-type: none"> 書く活動を取り入れ、「本当の自由」についてじっくり考える時間をとり、自分の言葉で本時をまとめさせる。

7 考察

道徳科の授業においては、教材の登場人物への自我関与を中心とする学習指導過程に加え、問題解決的な学習指導過程を年間指導計画にいくつか位置付けることで、道徳的諸価値に関わる問題を主体的に解決するための資質・能力を意図的に養うことができる。

また、問題解決的な学習に終始するのではなく、登場人物への自我関与を中心とする学習指導過程に一部取り入れることで、道徳科の授業に厚みをもたせ、より効果的な授業をつくることができる。

その際、次の指導方法の工夫が登場人物への自我関与を中心とする学習指導過程以上に重要である。

- ① 児童の立場を明確にしてから、小グループでの話し合い。
- ② 話し合いを深めるための効果的な補助発問
- ③ ワークシート等を工夫した書く活動

<道徳的行為に関する体験的な学習指導過程の作成と評価、改善>

役割演技などの体験的な学習を通して、実際の問題場面を実感を伴って理解することによって、様々な問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養うことができる。

問題場面を実際に体験してみること、また、それに対して自分ならどのような行動をとるかという問題解決のための役割演技を通して、道徳的価値を実現するための資質・能力を養うことができる。

1 具備しなければならない要件

- ① 道徳的価値に関わる問題場面が分かりやすい教材
- ② どのように行動するかを問う発問
- ③ 役割演技を取り入れた学習活動
- ④ 役割演技を通して気付いた気持ちや考えを問う発問

<基本的な学習指導過程>

<p>導 入</p>	<p>本時の学習へ関心を向ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教材や日常生活から道徳的な問題を見つける
----------------	---

3 工夫、配慮事項等

- ① 導入において、道徳的な問題意識をしっかりともたせることは、道徳的行為に関する体験的な学習指導過程においても、大変重要である。問題意識をもたせる工夫がなければならない。
 - ・生活場面における問題を出させ、話し合わせる
 - ・問題場面を設定し、役割演技等をさせて問題点を浮き彫りにする
 - ・問題場面がイメージできる場面絵を提示し、問題を想起させる など
- ② 役割演技においては、代表の児童に演じさせ、その児童に気持ちや考えを問うだけでなく、代表の児童の役割演技をもとにクラス全員で話し合わせることも必要である。また、教師は児童のせりふの言い方や身体表現の裏にある道徳的価値への気づきに着目して言葉掛けしたり、役割演技を見ている児童に対して、自分の考えと比較しながら演技を見るように声を掛けたりすることが大切である。
 - ・主人公を演じた児童に対して
「どんな気持ちで演じたのか」「何が問題なのか」「どのようなことがよさなのか」「何がわかったか」など
 - ・見ていた児童に対して
「演技を見て、どんなことを考えたか」「何が問題だろうか」「自分ならどうするか」
「どう行動（演技）すればいいのだろうか」「ほかにどんな行動（演技）が考えられるか」 など
- ③ 道徳的価値を多面的・多角的に考えさせるために、主人公だけでなく、そのほかの登場人物を演技することも有効である。
- ④ 主人公の心の内の葛藤を二人で演じることにより、道徳的価値を自分とのかかわりで捉えたり、交流して自分の考えを深めたりすることも考えられる。
- ⑤ 役割演技にイラストやペープサート、人形等の活用を併せて行い、効果を高める工夫も考えるとよい。

4 本学習指導過程に基づく指導における評価

- ① 児童の学習状況の評価
 - ・役割演技により、「分かっているけどできない」自分や、行為することの難しさに気付くことができたか。
(人間理解、自己理解)
 - ・役割演技により、問題場面を実感を伴って理解でき、多様な感じ方や考えから道徳的価値の意味や必要性に気付くことができたか。
(他者理解、価値理解)
 - ・道徳的な問題に対して、自分が取り得る行動を演技し、それを基に話し合いを深めることができたか。
(価値理解)
- ② 児童の道徳性に係る成長の様子
児童の発言等を「一面的な見方・考え方をしている発言」と「多面的・多角的な見方・考え方をしている発言」という観点から聞きながら分析的に捉えていくことも考えられる。本時の例で言えば、次のような表を用意しておき、記録していくとよい。

道徳性	発言等の内容	児童名
多面的・多角的な見方・考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・親切にするとみんなが気持ちいい。 ・親切はした人もされた人も、両方ともうれしくなる。 ・親切にできる人は、相手が喜ぶことを知っている。 ・親切にすると自分も親切にもらえる。 ・親切にしないのは、自分のことだけを考えている。 ・親切にしないとおこられる。親切にしてほめられたい。 	児童A 児童B など
一面的な見方・考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・相手が困るのが、おもしろいと思っている。 ・相手が嫌がったり困ったりしている気持ちが分からない。 	

5 評価に基づく改善のポイント

- ① 「児童の学習状況の評価」の視点から
 - ・導入において、問題意識をしっかりともたせられなかった。
⇒ア 生活場面を話し合うだけでなく、その場面を取り上げて役割演技により問題を浮き彫りにする。
 - ・授業の流れの中で集中力にやや欠ける様子が見られた。
⇒イ 教材を区切りながら読み、臨場感を味わわせながらその中で役割演技を考えさせるようにする。
 - ・「親切はよいことだ」という決まり切った発言に留まり、しっかりと考えての発言が少なかった。
⇒ウ うさぎやきつねを追い返している場面の「えへん、へん。」と、うさぎを抱き上げ、後ろに降ろしてあげた場面の「えへん、へん。」との違いを役割演技を通して考え、比較検討することにより親切につ

いての考えを深められるようにする。

② 「児童の道徳性に係る成長の様子」の視点から

- ・意地悪をしてしまう人間の弱さや、それを乗り越えて親切にすることの大切さとその意味を、実感を伴って考えたり感じ取ったりしている児童が多いとは言えなかった。
- ⇒ア 役割演技の回数を増やし、演技した児童だけでなく、その演技を基に話し合いをもち、自分との関わりを大事にしながら問題場面に対する行動の仕方、感じ方や考え方を多面的・多角的に考えられるようにする。
- ・教師の観察による評価だけでは、自己表現の苦手な児童の評価が捉えにくかった。
- ⇒イ 自己評価カードを活用して、展開後段に書く活動を取り入れ、自己のよりよい生き方について、考えさせるようにする。

※ 道徳科の授業改善においては、本時の取組状況を自己評価させ蓄積していくことが大切である。ワークシート等に自己評価カードを付け、継続できるよう工夫するとよい。

ふりかえりカード	◎とてもよい	○よい	△もうすこし
しんせつについてかんがえることができましたか。			
じぶんのかんがえをはっぴょうすることができましたか。			
ともだちのかんがえのいいなとおもったいけんがありましたか。 だれの () どんな ()			

6 改善した本学習指導過程の例

段階	学習活動・主な発問	予想される児童の発言	指導上の留意点 ☆評価の観点
導入	1 「人からされて嫌なこと」について話し合い、問題場面を浮き彫りにする役割演技を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間外れ。 ・いじわる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・経験したことを基に話し合い、その上で、<u>生活場面における問題場面として鬼ごっこに「入れて」と言っても入れてくれない場面を取り上げて役割演技をすることで、問題意識をしっかりとらさせる。</u>
	2 教材文を読み考える。 ○うさぎやきつねを追い返しているおおかみを役割演技してみましょう。 ・ <u>おおかみはどんな気持ちでしようか。</u> ・ <u>役割演技を見てどんなことを考えましたか。</u> ・ <u>うさぎたちの気持ちはどんなでしようか。</u> ○いつまでもくまの後ろ姿を見ていた時、おおかみは心の中で何を考えていたのでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・おおかみはいい気持ちでいる。 ・王様になった気分だ。 ・戻っていく姿がおもしろい。 ・ちょっとかわいそうだ。 ・自分も威張ってみたいな。 ・もっと優しくした方がいい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物と一本橋での出来事であることを簡単に話す。 ・<u>教材文を区切りながら読み、役割演技を取り入れながら、考えさせるようにする。</u> ・「もどれ、もどれ」と追い返すおおかみを役割演技することで、実感をもたせて考えさせる。 ・<u>おおかみの気持ち、それを見ている児童の気持ちや考え、うさぎたちの気持ちを捉えさせ、より問題点を明確にし、解決への意欲を高めたい。</u>
		<ul style="list-style-type: none"> ・なんてことをしたんだろう。 ・うれしいな。 ・くまさんって、やさしいな。 ・ぼくもまねしようかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師による役割演技を見て、親切にされたおおかみの気持ちを捉えさせ、自分を反省したり、親切のよさを考えたりさせる。 ☆くまに親切にされたことで、温かい気持ちになったおおかみの気持ちを捉え、その大切さを理解し、自分自身を見つめる事ができたか。

	<p>○うさぎを抱き上げて後ろに降ろしたおかみはどんなことを考えているでしょうか。</p> <p>・<u>追い返している場面の「えへん、へん。」と、うさぎを抱き上げ、後ろに降ろした場面の「えへん、へん。」の違いを役割演技で確認してみましよう。</u></p> <p>3 自己を見つめる。</p> <p>○みなさんは、これまでにどんな親切をしたことがありますか。</p> <p>○おかみのように「いい気持ち」で過ごすために、どんなことをしたいですか。</p>	<p style="text-align: center;">5 評価に基づく改善のポイント②のア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親切にした方がいいな。 ・うさぎも喜んでいるぞ。 ・ぼくにもできるな。 ・これからは親切にしよう。 ・意地悪して威張るより、優しい方が気持ちがいい。 ・親切にすると相手も自分もいい気持ちになる。 <p style="text-align: center;">5 評価に基づく改善のポイント①のウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・泣いていた友達に声を掛けた。 ・困っていたら手伝ってあげたいな。 ・来年の1年生に分からないことを教えてあげたいな。 <p style="text-align: center;">5 評価に基づく改善のポイント②のイ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・親切にし始めたおかみの考えを通して、親切のよさを児童なりの言葉で言わせていく。 ・<u>「えへん、へん。」をペアで役割を交代しながら演技し、優しく親切な行動のよさを実感として捉えさせる。</u> <p>☆意地悪をする楽しさと比較させ、親切にする喜びを実感をもって捉えることができたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親切な行為の写真を見せることで、教材と自分の生活を結びつけながらこれまでの行動や思いを振り返らせる。 ・<u>ワークシートに書く活動を取り入れ、自分自身を見つめさせることによって、ねらいとする道徳的価値についての自覚を深めさせる。</u> <p>☆親切は、した側もされた側もすがすがしい気持ちになることを理解できたか。</p>
--	--	--	--

7 考察

役割演技は、登場人物への自我関与が中心の学習指導過程においても積極的に取り入れるとよい指導方法である。しかし、ここでは、自我関与に拘らず、教材の中の問題場面を実感を伴って考え理解させ、様々な問題を主体的に解決するための資質・能力を養う道徳科の授業を構想するために、役割演技の効果をより一層生かし、活用した授業を考えている。

その際、次の工夫・配慮が重要である。

- ① 役割演技等を指名して行わせる場合、誰にその役割をさせるのか、誰とさせるのかを考える。
- ② 役割演技等の場面設定はよく検討し、より効果的な設定とする。
- ③ 児童全員に役割演技等をさせるためにペアで行うなどの工夫や、演技を見て話し合うなどの工夫。

第4 年間指導計画の作成と評価、改善

年間指導計画とは

「道徳科の指導が全体計画に基づき、児童の発達段階に即して計画的、発展的に行われるように組織された、全学年にわたる年間の指導計画」

言いかえると

毎週の道徳科の指導をどのように行うのかを具体的に示したもの

年間指導計画を作成することで（年間指導計画の意義）

- ① 6年間を見通した計画的、発展的な指導を可能にする。
- ② 個々の学級において道徳科の学習指導案を立案するよりどころとなる。
- ③ 学級相互、学年相互の教師間の研修などの手掛かりとなる。

明記しておく内容は（具備しなければならない要件）

- ア 各学年の基本方針
- イ 配当時間数一覧
- ウ 学年別主題配列一覧表
- エ 指導の概要（主題名、ねらい、内容項目 等）

→18ページ「1 具備しなければならない要件」

特色ある年間指導計画

（各学校の創意工夫）

例えば・・・

- ① オリエンテーションやまとめ
- ② 多様な学習指導過程
- ③ 重点指導項目の意図的配列
- ④ 児童の評価に係る表記

→19ページ「3 工夫、配慮事項等」

指導を一層効果的に行うために（年間指導計画の評価と改善）

- ① 道徳科における児童の道徳性に係る成長の様子をポイントにする。（長期的）
- ② 記入された「授業後の改善点」をもとに評価を行う。
- ③ 教育活動全体を通じた児童の成長の様子も参考にする。（他の教育活動との関連）
- ④ 評価に基づいて、学校全体で改善を図っていく。

→22ページ「4 年間指導計画に基づく指導における評価」、

23ページ「5 評価に基づく改善のポイント」

大切なのは、年間指導計画を日常的に活用し、授業後の評価を記録しておくことである。

1 具備しなければならない要件

- ① 各学年の基本方針
全体計画に基づき、各学年の道徳科における指導の基本方針を具体的に示す。
- ② 配当時間数一覧
道徳教育の重点目標、各学年の重点目標などを踏まえて、各学年で繰り返し指導する内容項目を選定し、年間の道徳科において各内容項目を何時間扱うのかを一覧表で示す。これにより、指導の重点が明確になり、6年間を見通した計画的、発展的な指導が行いやすくなる。
- ③ 学年別主題配列一覧表
主題名をつけ、指導時期を考慮して主題を配列し、指導時期、主題名、内容項目、教材名等を一覧表で示す。これは、年間指導計画のいわば目次であり、年間を見通す際に活用できるとともに、重点的な指導や複数時間の関連を図った指導を行うためにも必要である。
- ④ 指導の概要
各学年の年間にわたる指導の概要を示す。具体的には、指導の時期、主題名、ねらい、教材、主題構成の理由、学習指導過程、他の教育活動等における道徳教育との関連などを示し、計画に基づいて道徳科の授業が実施できるようにする。

2 具体例（第4学年の例）

- ① 基本方針
 - ・教材を通して、登場人物の行為や行動の奥にある感じ方や考え方、道徳的価値等を自分との関わりで考える。
 - ・学級内で意見を出し合い、考えを磨き合い、自己の生き方について考えを深める。
- ② 配当時間数一覧
(Aの視点において、学校の道徳教育の重点内容項目が〔A正直、誠実〕であり、第4学年の重点内容項目が〔A個性の伸長〕の場合)

視点	内容項目	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
A まして自分自身に関する事	善悪の判断、自律、自由と責任	2	2	2	2	1	2	11
	正直、誠実	3	3	2	2	2	2	14
	節度、節制	2	3	2	1	1	1	10
	個性の伸長	1	2	2	3	1	1	10
	希望と勇気、努力と強い意志	2	1	1	2	1	2	9
	真理の探究					1	2	3
と	よりよく生きる喜び					2	1	3
合計		34	35	35	35	35	35	209

※太線で囲んでいる所：重点的に指導する内容項目

③ 学年別主題配列一覧表

学年	月	週	主題名	内容項目	教材名<出典>	諸様相	備考
1学期	4月	1	相手のことを考えた言葉を	B礼儀	かなちゃんへの手紙 <彩の国のどうとく>	判断力	変更点やその理由、授業後に気付いたことや改善点等を書き加え、次年度の年間指導計画見直しの際に参考資料として活用する。
		2	明るく、正直な心	A正直、誠実	新発売のカード <彩の国のどうとく>	実践意欲・態度	
		3	相手の立場や心を理解する	B親切、思いやり	スーパーの店先で <彩の国の道徳 心の絆>	心情	
	5月	1	相手の立場や心を理解する 難しさ		心と心のあく手 <わたしたちの道徳>	判断力	
		2	自分のよい所を伸ばそう	A個性の伸長	うれしく思えた日から <わたしたちの道徳>	心情	
3学期	3月	1	一つのかげがえのない命	D生命の尊さ	ヒキガエルとロバ <わたしたちの道徳>	実践意欲・態度	
		2	ふるさとの伝統を大切に	C伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度	キラキラひかるあめ玉 <彩の国のどうとく>	実践意欲・態度	

④ 指導の概要

4月1週	主題名	相手のことを考えた言葉を	内容項目	B礼儀
	ねらい	つい悪口を言ってしまったり、嫌なことをしてしまったりしたときの対処の仕方 を考える学習を通して、礼儀とはいつでも真心をもって接することが大切である ことを理解し、自分も相手も気持ちよく過ごしていくための判断力を高める。		
	教材名	かなちゃんへの手紙	出典	彩の国のどうとく
	主題構成 の理由	よりよい人間関係を築くためには、人との関わりにおいて、どのような振る舞い が好ましいか考える。		
	学習指導過程	1 言われてうれしい言葉を知る。 2 教材「かなちゃんへの手紙」を読み、話し合う。 (1) 悪口の手紙を書き、机の前で立っているわたしの気持ち。 (2) かなちゃんから電話があったことを知ったわたしの心の内。 (3) わたしは、なぜ泣きながら手紙をちぎったのか。 (4) わたしは、かなちゃんにどんな手紙で自分の思いを伝えればよいのだろう。 3 礼儀や正しい言葉遣いについてこれからの自分の生き方について考える。 4 教師の説話を聞く。		
	他の教育活動との関連	あいさつ運動、学習規律の指導(常時)、学級活動(2)		
	備考	私たちの道徳「だれに対しても真心をもって」		
	授業後の改善点	学校の年間生徒指導目標が「礼儀正しくあいさつをしよう」であることから、終末に校 長の話を取り入れるとよい。		
4月2週	主題名	明るく、正直な心	内容項目	A正直、誠実
	ねらい	人間的な弱さから生じる道徳的問題の解決策や、正直という道徳的価値の意義を 考える学習を通して、正直とは、過ちは素直に改めることであると理解し、正直 に明るい心で元気よく生活していこうとする態度を養う。		
	教材名	新発売のカード	出典	彩の国のどうとく
	主題構成 の理由	過ちを素直に改める正直な心で、楽しく生活していこうとするにはどうしたらよ いのか考える。		
	学習指導過程	1 学習課題「正直」とは、何か考える。 2 教材「新発売のカード」を読み、話し合う。 (1) けんたは、正直な人か。 (2) なぜ、けんたは、母親に話したのか。 (3) 話す前と後でけんたは何が変わったか。 3 学習課題について考えをもつ。 「正直な人」とはどんな人か、考えたことを書く。 4 学習課題から学んだ、これからの自分の生き方について記入する。		
	他の教育活動との関連	係・当番活動		
	備考	私たちの道徳「正直に明るい心で」 導入における学習課題に対し、自分なりの結論を出す		
	授業後の改善点	記述を2つ設けたことで、時間配分に課題が出た。		

4 年間指導計画に基づく指導における評価及び5 評価に基づく改善のポイント①②③で示したものを踏まえ、道徳性に係る成長の様子の長期的に把握し計画を見直す。

3 工夫、配慮事項等

- ① 道徳教育の重点目標や各学年の重点目標等を踏まえ、重点的指導を行えるよう、配当時数を考える。
- ② 児童の実態や他の教育活動との関連、季節的变化などを考慮し、指導の時期を適切に配列する。
- ③ 計画的・発展的な配列がされているか、進学中学校との関連が考慮されているか等、6年間のバランスをみていく。
- ④ 教科書、私たちの道徳、小学校道徳読み物資料(文部科学省)、埼玉県道徳指導資料集(「彩の国の道徳」等)、自作教材など、適切な教材選択を行う。

- ⑤ 指導の概要の各欄には、以下のような内容を示す。
- 主題名** ねらいと教材を合わせて、本時の学習内容を端的に示す。
- 内容項目** 本時に主として学習させる内容項目の、視点の区分 (ABCD) とキーワードを示す。
- 主題構成の理由** ねらいを達成するために活用する教材の内容を踏まえて、指導のポイントを簡潔に示す。
- 学習指導過程** 授業の進め方 (読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習等) や具体的な発問、様々な人材 (管理職や保護者、地域の人々など) の参加・協力等の工夫を、各学校の実態に応じて適切に行う。
- 他の教育活動との関連** 他教科等においてどのような指導が行われているか、日常の学級経営においてどのような配慮がなされているかを示す。
- 授業後の改善点** 次年度に向けての課題や具体的な改善のポイントについて、授業を行った後に記入し、年間指導計画を見直す際に参考にする。
- ⑥ 時期、時数、ねらい、教材、学習指導過程、指導方法の変更については、計画の弾力的な取扱いについて配慮する。
- ⑦ さらに、各校の全体計画を基に以下のような特色ある年間指導計画を積極的に取り入れるとよい。

ア オリエンテーションやまとめを位置付けた年間指導計画

4月1週	主題名	自分を見つめよう	内容項目	(全内容項目)
	ねらい	自分の良いところや課題を考え、これからの自己の生き方を見つめる学習を通して、今よりも自己を高めていこうとする意欲を高める。		
	教材名	自分の良い所を探そう (ワークシート) 自分の良いところ (アンケート)	出典	自作【PC保存先:共有-道徳…】
	主題構成の理由	1年間の道徳科の授業に希望をもつとともに、今の自分を見つめ振り返り、1年後の自分の目標をもつ。		
	学習指導過程	1 わたしたちの道徳7ページを記入し、自己を見つめるウォーミングアップをする。 2 記入したことを発表し合う中で、道徳科の授業のルールを知る。 3 「よいとこみつけ」をする中で、自分のよさや課題を発見する。 (1) 友だちの良いところをグループで発表しましょう。 (2) アンケートに答えましょう。 (3) 自分の良いところや課題は何ですか。 4 これからの道徳科の授業で伸ばしたいところをワークシートに記入する。 5 道徳科の授業における教師の思いや願いを感じる。		
	他の教育活動との関連	規律ある態度『「～です(か)」、「～ます(か)」を言うことができる。』の徹底		
	備考	「よいとこみつけ」では、3年生の時の同学級を同グループとする。		
授業後の改善点				
3月2週	主題名	成長したところをさがそう	内容項目	(全内容項目)
	ねらい	一年間の道徳科の授業の中で成長したことを振り返る学習を通して、自分の良いところや課題を考え、これからの自己の生き方を見つめることで、次年度へ希望を抱かせ、さらに自己を高めていこうとする意欲を高める。		
	教材名	1年間をふり返ろう (ワークシート)	出典	自作【PC保存先:共有-道徳…】
	主題構成の理由	一年間の道徳科の振り返りを行うことで、自己の学習状況や道徳性に係る成長の様子に気付く。		
	学習指導過程	1 一年間の道徳科の授業の中で、友達の見解で勉強になったことを2つ、ワークシートに記入する。 2 全体で発表し合い、共有する。 3 4月1週の授業と同じアンケートを行う。一年間の道徳科の授業の中で、自分が成長したと思うことをワークシートに記入する。 4 グループで発表し合い、グループの代表者 (発表者) を一人選ぶ。 5 グループの代表者が、成長したことを全体で発表し、共有する。 6 写真を交えた簡単なプレゼンを見ながら、教師の話聞く。		
	他の教育活動との関連	学級経営		
	備考	児童の振り返りを、次年度の年間指導計画見直しの際の評価資料とする。		
授業後の改善点				

イ 多様な学習指導過程に着目した年間指導計画

4月1週	主題名	相手のことを考えた言葉を	内容項目	B 礼儀
	ねらい	つい悪口を言ってしまったり、嫌なことをしてしまったりしたときの対処の仕方を考える学習を通して、礼儀とはいつでも真心をもって接することが大切であることを理解し、自分も相手も気持ちよく過ごしていくための判断力を高める。		
	教材名	かなちゃんへの手紙	出典	彩の国のどうとく
	主題構成の理由	よりよい人間関係を築くためには、人との関わりにおいて、どのような振る舞いが好ましいか考える。		
	学習指導過程	<p><ア 自我関与が中心></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 言われてうれしい言葉を知る。 2 教材「かなちゃんへの手紙」を読み、話し合う。 (1)机の前で立っているわたしの気持ち。 (2)かなちゃんから電話があったことを知ったわたしの心の内。 (3)わたしはなぜ泣きながら手紙をちぎったのか。 (4)どんな手紙で思いを伝えればよいのだろう。 3 礼儀や正しい言葉遣いについて考える。 4 校長の話聞く。 	<p><イ 体験的な学習></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 言葉のもつ力について考える。 2 教材「かなちゃんへの手紙」を読み、話し合う。 (1)この話の問題は何か。 (2)実際の問題場面を再現し、登場人物の取り得る行動について多角的に考える。 (3)新たな問題場面を提示し、グループで話し合う。 (4)役割演技を通して実感を伴って考え、問題を解決する方法を考える。 3 これからの自分の生き方について考える。 	
	他の教育活動との関連	あいさつ運動、学習規律の指導(常時)、学級活動(2)		
	備考	私たちの道徳「だれに対しても真心をもって」		
	授業後の改善点	体験的な学習を取り入れることで、誠意ある行動が不可欠であると考えられる授業となった。	実践した学習指導過程 イ 体験的な学習	

ウ 重点指導項目について意図的に配列した年間指導計画

4月3週	主題名	相手の立場や心を理解する難しさ	内容項目	B 親切、思いやり
	ねらい	それぞれの立場を考え、自分にできることを実行しようとする思いを考える学習を通して、相手の立場に立つ難しさを理解した上で、進んで親切にしようとする心情を育てる。		
	教材名	スーパーの店先で	出典	彩の国の道徳 心の絆
	主題構成の理由	困っている人を思いやる気持ちは誰にでもあるが、相手の気持ちや立場を考える難しさも理解した上で、進んで親切にしたいという思いにつなげる。		
	学習指導過程	<ol style="list-style-type: none"> 1 どうして人に親切にしようと思うのか、これまでの学習を踏まえて考える。 2 教材「スーパーの店先で」を読み、話し合う。 (1)男の人と、お店の人の思いをそれぞれ考えてみましょう。 (2)二人のやり取りを見て、ぼくはどんなことを考えていたのでしょうか。 (3)どうしてぼくは駐車場に行つてまで、水を男の人に差し出したのでしょうか。 3 親切にしたいという思いについて、自分との関わりの中で改めて考える。 		
	他の教育活動との関連	総合的な学習の時間「ふれあいの輪を広げよう」(福祉)、縦割り班での活動		
	備考	わたしたちの道徳「思いやりの心とは、どのような心でしょう」		
	授業後の改善点			
5月1週	主題名	相手の立場や心を理解する難しさ	内容項目	B 親切、思いやり
	ねらい	声をかけて断られたにもかかわらず、その後も見守るという判断について考える学習を通して、思いやりとは相手の状況を考えることだと理解し、相手の立場に立って行動するための判断力を高める。		
	教材名	心と心のあく手	出典	わたしたちの道徳
	主題構成の理由	相手の立場に立って親切にするには、相手の状況や心情を理解するなどして、今何をするのがよいのか判断する必要があることを認識する。		
	学習	<ol style="list-style-type: none"> 1 前時の学習をふり返り、親切とはどのような行動かを考える。 2 教材「心と心のあく手」を読み、話し合う。 (1)数日後におばあさんと会った時、自分だったらどうしますか。また、なぜそうしますか。 		

エ 児童の評価について欄を設けた年間指導計画

5月1週	主題名	相手の立場や心を理解する難しさ	内容項目	B親切、思いやり	
	ねらい	声をかけて断られたにもかかわらず、その後も見守るとい判断について考える学習を通して、思いやりとは相手の状況を考えることだと理解し、相手の立場に立って行動するための判断力を高める。			
	教材名	心と心のあく手	出典	わたしたちの道徳	
	主題構成の理由	相手の立場に立って親切にするには、相手の状況や心情を理解するなどして、今何をするのがよいか判断する必要があることを認識する。			
	学習指導過程	学 習 活 動		評 価 の 観 点	
		1 前時の学習をふり返り、親切とはどのような行動かを考える。 2 教材「心と心のあく手」を読み、話し合う。 （1）数日後におばあさんと会った時、自分だったらどうしますか。また、なぜそうしますか。 （2）ぼくはどうしておばあさんの後をついていったのでしょうか。 3 「相手の立場に立って親切にする」とはどのように行動することかを考える。 4 相手の立場や心を理解して親切にするということについて、自分との関わりの中で改めて考える。	<ul style="list-style-type: none"> これまでの学習をふり返り、自己を見つめ、思いやりについて自分なりに考えている。【発言】 ついていくぼくの気持ちを考える学習を通して、思いやりの大切さについて理解を深めている。【発言】 本時の学びを自分の言葉で整理し、相手の立場に立って行動するためには、どのようにすればよいかを自分なりに考えている。【道徳ノート、発言】 		
	他の教育活動との関連	帰りの会でのふり返り			
備考	わたしたちの道徳「人との関わりの基本にあるのは思いやり」				
授業後の改善点					

⑧ ねらいの示し方は、授業を改善し一層充実させるためには大変重要である。

ねらいは、この時間に何を中心に考えさせ、どんな道徳的諸価値に迫り、どんな力を高めていくかが明確になるよう記述する。このとき学習活動と重点的に身に付けさせたい道徳的諸様相との整合性が取れるようにする。具体的には、次のような示し方となる。

※<A>を通して、しようとする<C>を育てる（高める、養う）。

<A>・・・教材のどこをどう活用し、何を中心に学習させるのか。

・・・内容項目から具体的にどのような道徳的価値を取り上げるのか。

<C>・・・道徳性の諸様相からどのような資質・能力を育てるのか。

(例) 中学年「新発売のカード」[A正直、誠実]のねらいの示し方

・「道徳的判断力」の育成に重点を置いた授業のとき

人は時として過ちを犯すことがあるが、その時どのように対処すればよいかを話し合う活動を通して、過ちを素直に改め、正直に明るい心で生活していくための判断力を育てる（高める）。

・「道徳的心情」の育成に重点を置いた授業のとき

人は時として過ちを犯すことがあるが、その心の内やその後の行動を考える学習を通して、正直に伝えたときの気持ちのよさに気付き、過ちを素直に改め、正直に明るい心で生活しようとする心情を育てる。

・「道徳的実践意欲と態度」の育成に重点を置いた授業のとき

人間的な弱さから生じる道徳的問題の解決策や、正直という道徳的価値の意義を考える学習を通して、正直とは、過ちは素直に改めることであると理解し、正直に明るい心で元気よく生活していこうとする態度を育てる（養う）。

4 年間指導計画に基づく指導における評価

年間指導計画における評価は、長期的な視点(学期ごと、前・後期に分けて、年間を通して等)に立ち、道徳科及び教育活動全体における児童の成長の様子を通して総合的に評価をしていく必要がある。具体的には、児童の道徳性に係る成長の様子や主として身に付けさせたい道徳的諸様相、指導時期の適切さや重点指導項目との関連、児童の成長につながる「学習指導過程」であったか等にポイントをおき、記入された授業後の改善点も参考にしながら評価する。

道徳性に係る成長の様子を把握する視点の例としては、以下のようなものが考えられる。

① 低学年の例

・行ってよいことと悪いことについての理解ができるようになったか。

- ・ 集団の一員としての意識をもってかかわりを深めたか。
- ② 中学年の例
 - ・ 自分の行為の善悪について、反省しながら把握できるようになったか。
 - ・ 自分を内省する力を身に付け、自分の特徴を自覚し、よい所を伸ばす意識が高まったか。
- ③ 高学年の例
 - ・ 多様な経験を通して協働的な態度が育ったか。
 - ・ 属している集団や社会における自分の役割や責任などについての自覚が深まったか。

5 評価に基づく改善のポイント

評価によって明らかになった課題について、より大きな効果を期待できるという判断を前提として、学年による検討等を経て、道徳教育推進教師を中心に学校全体で改善を図っていく。評価に基づく改善例としては、以下のようなものが考えられる。

- ① 道徳性に係る成長の様子から
 - ・ 道徳的心情は育ってきたが、判断力に課題があったので、判断力を高めるねらいを多く取り入れる。
 - ・ 重点指導項目における成長が十分でなかったため、2単位時間で指導する配列とし充実を図る。
- ② 授業後の改善点から
 - ・ 主人公の考えを一面的にしか考えられない授業展開となったので、多面的に考えられるよう、発問の仕方を変える。
 - ・ 教材の内容が児童の実態に合わなかったため、同じ内容項目を扱う別の教材に変更する。
- ③ 他との関わりから
 - ・ 他の教科等で扱う体験活動を生かし、指導する内容項目をより深く考えられるようにするため、指導時期を変更する。
 - ・ 家庭や地域社会との連携を図り、指導する内容項目をより多角的に考えられるようにするため、ゲストティーチャーの活用など、学習指導過程を工夫する。
 - ・ 下学年での指導をより意識した発展的な指導となるよう、学年間の系統性を考慮し、教材を変更した上で、発問のしかたを工夫する。
 - ・ 中学校段階との接続も考え、国家・社会の一員としての自覚を育てる指導を充実させる等、配当時間数や配列を見直す。

6 改善した年間指導計画の例

4 月 2 週	主題名	明るく、正直な心	内容項目	A正直、誠実
	ねらい	人間的な弱さから生じる道徳的問題の解決策や、正直という道徳的価値の意義を考える学習を通して、正直とは、過ちは素直に改めることであると理解し、正直に明るい心で元気よく生活していこうとする態度を養う。		
	教材名	新発売のカード	出典	彩の国のどうとく
	主題構成の理由	過ちを素直に改める正直な心で、楽しく生活するにはどうしたらよいのか考える。		
	学習指導過程	<ol style="list-style-type: none"> 1 学習課題「正直」とは、何か考える。 2 教材「新発売のカード」を読み聞かせ、話し合う。 (1) けんたは、正直な人か。 (2) なぜ、けんたは、母親に話したのか。 (3) 話す前と後でけんたは何が変わったか。 3 学習課題について考えをもつ。 「正直な人」とはどんな人か、グループで話し合う。 4 学習課題から学んだ、これからの自分の生き方について記入する。 		
	他の教育活動との関連	係・当番活動 朝の会・帰りの会		
	備考	私たちの道徳「正直に明るい心で」 導入における学習課題に対し、自分なりの結論を出す		
	授業後の改善点			

5 評価に基づく改善のポイント②
(本例は19ページ)

7 考察

道徳教育の要である道徳科を中・長期的視点から計画的、発展的に指導を行うには、年間指導計画の工夫は不可欠である。また、一年間を通じた道徳科の指導が有効だったかを適切に評価し、改善を図ることで、より効果的に児童の資質・能力を育むことができる。そのためにも年間指導計画を日常的に活用し、授業後の評価を記録しておく必要がある。

全体計画の意義と指導体制

校長の方針

学校の教育目標



学校の道徳教育目標の設定



道徳教育の全体計画

(道徳教育推進教師)



指導体制の構築

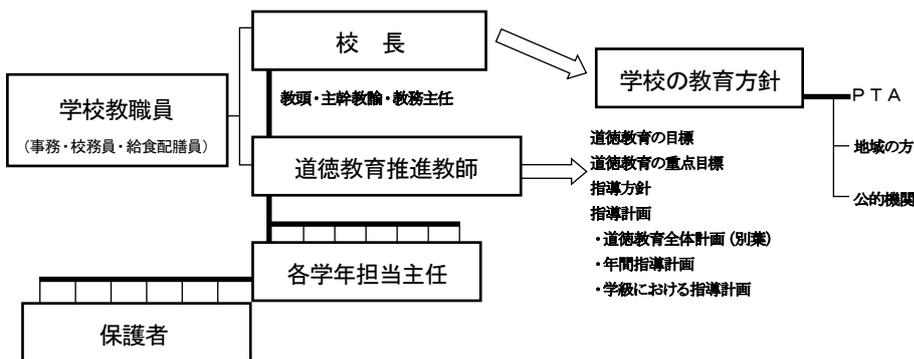
全体計画の意義

道徳教育は、その目標を踏まえ、道徳科を「要」としながら、学校の全教育活動で行うものである。全体計画を作成する際には、①校長の指導方針の明確化②道徳教育推進教師を中心に全教師による協力体制の整備が必要である。

全体計画とは、道徳教育の基本方針を示すとともに、その基本方針を具現化し、学校として道徳教育の目標を達成するために何を重点にし、各教育活動ではどのような役割分担をして関連を図るか、家庭や地域社会との連携をどのように進めていくのか等を示した教育計画である。

指導体制づくり

学校の全教育活動で道徳教育を行うために、家庭や地域社会との連携を明示しながら、全教職員が役割をもつ協力体制を構築する。

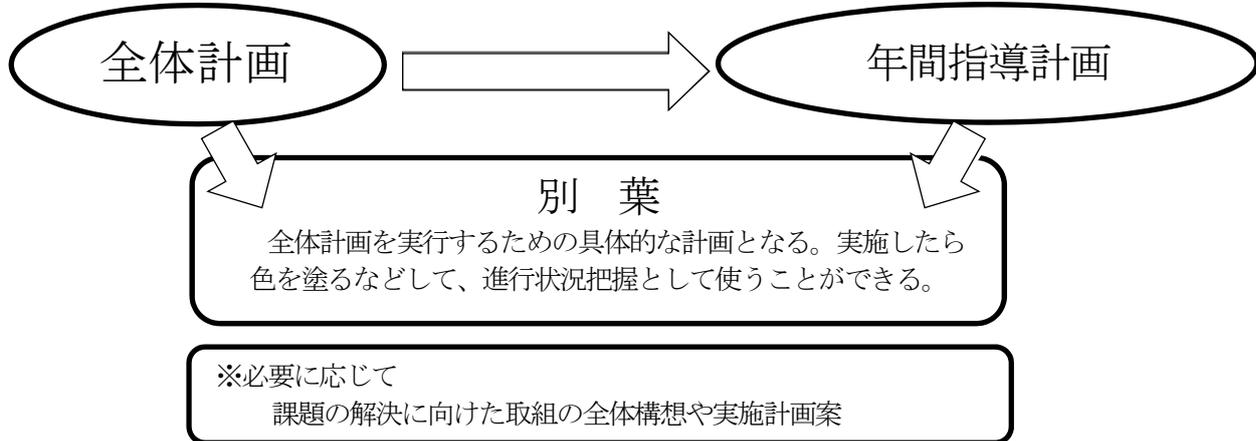


指導計画の在り方

指導体制に基づいて、全教職員が様々な場面で道徳教育の指導を意識して取り組むために、全体計画の別葉を作成する必要がある。

別葉の中に①各教科等における道徳教育に関わる「指導内容」と「指導時期」を整理する、②道徳教育に関わる体験活動や実践活動の時期等が一覧できるもの、③道徳教育の推進体制や家庭や地域社会との連携のための活動等がわかるもの、を加えることで年間を通して具体的に活用しやすいものになる。

また、必要に応じて、各学校が課題を解決するために、具体的な視点をもった取組の全体構想や実施計画案を用意すると、より実効性の高い全体計画にすることができる



1 具備しなければならない要件

(1) 全体計画（一覧表）

- ① 教育関係法規の規定、時代や社会の要請や課題、教育行政の重点施策
- ② 学校や地域社会の実態と課題、教職員や保護者の願い【アンケート例】
- ③ 児童の実態と課題
- ④ 学校の教育目標、校長の道徳教育の方針、学校の特色を生かした道徳教育の重点目標、各学年の重点目標
- ⑤ 道徳科の指導の方針
- ⑥ 各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動などにおける道徳教育の指導の方針、内容及び時期
- ⑦ 特色ある教育活動や豊かな体験活動における指導の方針、内容及び時期
- ⑧ 学級、学校の間関係、環境の整備や生活全般における指導の方針、日常的な学級経営を充実させるための具体的な計画、規律ある態度の育成
- ⑨ 家庭、地域社会、他の学校や関係機関との連携の方法
- ⑩ 道徳教育の推進体制

【アンケート例】

平成〇〇年〇月〇日

〇〇小学校 保護者様

〇〇市立〇〇小学校長 〇〇〇〇

道徳教育の充実に関するアンケート

初夏の候、保護者の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃より、本校の教育活動にご理解とご協力を賜りましてありがとうございます。

さて、今日、考え方や生き方が多様化している社会において、子どもたち一人一人が個性を築き、未来を担っていく力を育成することが求められています。そして、心豊かにたくましく生きる力をはぐくむため、「心の教育」「道徳教育」の充実が一層重要となっています。そこで、お子さんの様やかな成長を願い、保護者の皆様と今まで以上に手を携え、より一層の充実した教育活動を進めたいと考え、保護者の皆様のご意見をお伺いしたいと存じます。つきましては、ご多用のところ誠に恐縮ですが、趣旨をご理解の上、下記アンケートにお答え下さいますようお願い申し上げます。

この調査は、保護者の皆様の願いを把握するためのものであり、研修以外の目的に使うことはありません。また、お子さんの成績や評価などにも一切関係ございません。月 日()までに担任にご提出下さいませ。よう、どうぞ宜しくお願いいたします。

★(このアンケートを配布された)お子様の学年・性別 ()年 男・女
 ★回答される方の続柄 祖父 祖母 父 母 おじ おば その他()
 ★回答される方の年齢 20代 30代 40代 50代 60代 70代～

1 (このアンケートが配布された)お子様についてお聞かせ下さい。お子様についていると思われる心や態度を、下のア～スから選び、で囲んでください。(いくつでも結構です。)これらの項目は、新学習指導要領の道徳の内容を、参考にしています。

ア 正しいと判断したことは責任を持って行い責任を持つ ク 自分でできることは自分でやり度のある生活をする ケ 自分を誇り、良い所を知らし、悪い所を改める コ 真摯を大切にし、物事を探求しようとする サ お世話になっている人に感謝し、こたえる セ 友達を信頼し、男女相手を協力し合う ソ 広い心で、自分と違う立場や考えも大切に守る タ 約束や社会のきまりを守り自他の権利を大切にし義務を果たす チ 公正・公平な態度で、誰に対しても差別をしない ツ 働くことの意義を理解し、公共のために進んで働く テ 先生や学校を大事に思いやり、規範意識をつくる ト 世界の文化を大切に。世界の人々と親しむ ニ よりよく生きようとし、生きる喜びを感じる	イ 明るく誠実に生きる オ 目標を立て、努力する キ 相手を思いやり、誰にでも親切にする ケ 礼儀正しく人に接する コ 家族を愛し、家族のために進んで役立つ サ 日本の文化・伝統を大事にする シ 自他の生命を大切に ス 美しいものに感動する ソ その他()
--	---

2 お子様は、特にまだ不足していると思われる項目がありましたら、左下のア～スから選んで、記号をお書きください。(いくつでも結構です。)

3 学校で、特に大事に扱い、お子様に教えて欲しいものを左下のア～スから選んで、記号をお書きください。(いくつでも結構です。)

4 ご家庭で、心を態度、マナー、人としてのあり方などに關する約束ことや、決まり、また、保護者の方がよくお子様にかけられる言葉などがございましたら教えてください。

5 学校で「道徳の授業」を参観されたことがありますか?
ある ない

6 学校(学級)での「道徳教育」「道徳の時間」について、ご感想、ご意見、ご要望などがありましたら、お聞かせください。

お忙しい中、アンケートにご協力頂きまして
 ありがとうございます。

(2) 全体計画（別業）

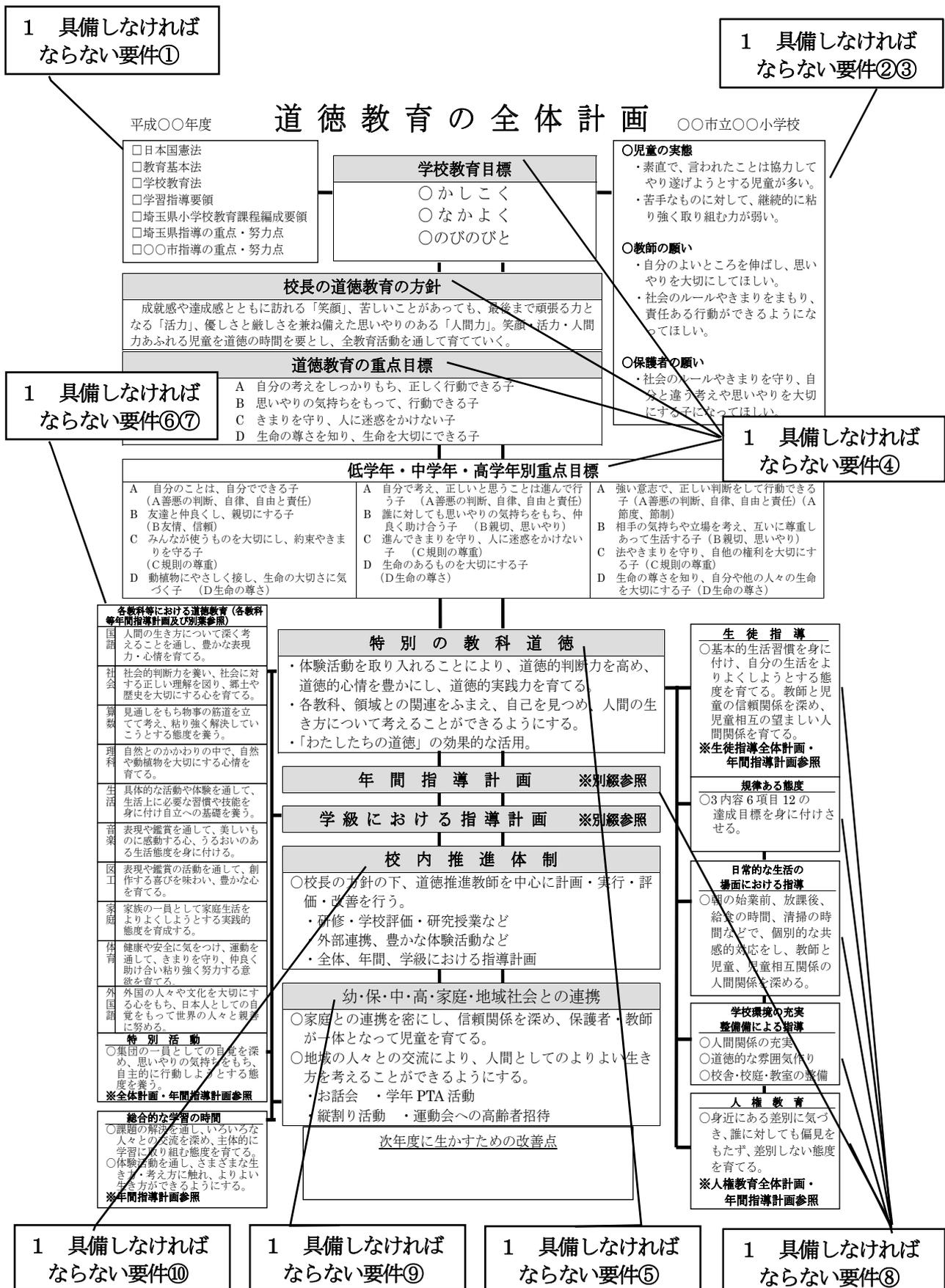
- ① 学校としてどのような児童を育成するのかを明らかにする。
例『相手を思いやり、規範意識のある子』
- ② 道徳教育の重点目標を明確にする。→『思いやり』『規範意識』
- ③ 重点目標に関わる内容項目を明確にする。→ [B親切,思いやり] [C規則の尊重]
- ④ 当該の内容項目に関わる道徳科以外の指導を明確にする。
 - ・「社会科の施設見学で、規範意識の指導をしよう。」
 - ・「体育のボールゲームで、規則の尊重について指導しよう。」
 - ・「遠足の山登りで、公衆道徳について指導しよう。」 など
- ⑤ 道徳科以外の指導の内容及び時期を一覧表などで明確にする。
- ⑥ その他の内容項目についても同様に、道徳科以外の指導の内容及び時期を明確にする。
- ⑦ 重点目標として掲げた内容項目を中心とした、実施計画を作成する。

(3) 全体計画（学級における指導計画）

道徳教育の充実を図るためには、学級における道徳教育を充実させなければならない。そのために「学級における指導計画」の作成は不可欠である。「学級における指導計画」とは、全体計画を学級の実態に応じて具現化し、学級において教師や児童の個性を生かした道徳教育を展開するための指針となるものである。従って学級担任は、学校や学年の道徳教育の方針を受け、具備しなければならない要件を自ら考え、創意工夫しながら作成することが大切である。

2 具体例

(1) 全体計画 (一覧表)



(2) 全体計画 (別業)

① 指導時期から見た別業

道徳教育全体計画別業 道徳の時間と各教科、領域の指導内容と時期との関連(1年)

内容\月	4月	5月	6月	
1年生にのめり込む学校行事	入学式 【C】のめり込む学校生活、集団生活の充実 【B】身体測定 【A】節度、節制【D】生命の尊厳 【C】道徳の判断、自律、自由と責任 【D】生命の尊厳	新体力テスト 【A】希望と勇気、努力と強い意志 【B】家庭訪問 【C】家族愛、家庭生活の充実 【D】自然愛	プール開き 【C】規則尊重【D】生命の尊厳	授業参観 【A】希望と勇気、努力と強い意志 【C】のめり込む学校生活、集団生活の充実
特別の教科 道徳	「学校のたからもの」 【C】伝統と文化の尊重、国や郷土に愛する態度 【A】礼儀 【B】礼儀	「わたし、手つづろじ」 【C】家族愛、家庭生活の充実 【D】自然愛 【A】希望と勇気、努力と強い意志 【B】規則、思いやり 【C】道徳の尊重 【D】生命の尊厳	「アラン」 【A】希望と勇気、努力と強い意志 【B】規則、思いやり 【C】道徳の尊重 【D】生命の尊厳 【A】節度、節制 【B】礼儀 【C】勤労、公共の精神	「黄色いマスカラ」 【A】節度、節制 【D】自然愛
国語	「なみだ」 【B】友情、信頼 【C】思いやり 【D】生命の尊厳	「涙はなまじき涙、涙はなまじき涙」 【B】礼儀 【C】道徳の尊重 【D】生命の尊厳	「花のさき」 【B】規則、思いやり 【C】道徳、畏敬の念 【D】生命の尊厳	「おおきなかぶ」 【B】友情、信頼 【C】勤労、公共の精神
算数	「10までのたし算」 【A】節度、節制	「たし算のたし算」 【C】道徳の尊重	「たし算のたし算」 【C】道徳の尊重 【D】生命の尊厳	「ひき算」【D】 【C】規則の尊重
生活	「おどろき」 【B】友情、信頼 【C】のめり込む学校生活、集団生活の充実 【A】節度、節制 【D】生命の尊厳	「あんなにがんばるきかた」 【A】節度、節制 【B】友情、信頼 【D】自然愛 【C】道徳の尊重 【D】生命の尊厳 【A】希望と勇気、努力と強い意志 【B】規則、思いやり 【C】道徳の尊重	「かっこうたん」 【C】のめり込む学校生活、集団生活の充実 【D】自然愛 【A】希望と勇気、努力と強い意志 【B】規則、思いやり 【C】道徳の尊重 【D】生命の尊厳	「ごっつあそび」 【B】友情、信頼 【D】自然愛 【C】道徳の尊重 【A】希望と勇気、努力と強い意志 【B】規則、思いやり 【C】道徳の尊重 【D】生命の尊厳
音楽	「うたのこころ」 【B】友情、信頼 【C】思いやり 【D】生命の尊厳	「うたのこころ」 【B】友情、信頼 【C】思いやり 【D】生命の尊厳	「うたのこころ」 【B】友情、信頼 【C】思いやり 【D】生命の尊厳	「うたのこころ」 【B】友情、信頼 【C】思いやり 【D】生命の尊厳
図工	「おどろき」 【B】友情、信頼 【C】思いやり 【D】生命の尊厳	「おどろき」 【B】友情、信頼 【C】思いやり 【D】生命の尊厳	「おどろき」 【B】友情、信頼 【C】思いやり 【D】生命の尊厳	「おどろき」 【B】友情、信頼 【C】思いやり 【D】生命の尊厳
体育	「体よく、多様な動き」 【B】友情、信頼 【C】思いやり 【D】生命の尊厳 【A】希望と勇気、努力と強い意志 【B】規則、思いやり 【C】道徳の尊重	「リズム遊び」 【B】友情、信頼 【C】思いやり 【D】生命の尊厳	「リズム遊び」 【B】友情、信頼 【C】思いやり 【D】生命の尊厳	「リズム遊び」 【B】友情、信頼 【C】思いやり 【D】生命の尊厳
地域・家庭との連携	入学式 避難訓練	家庭訪問		授業参観

1 具備しなければ
ならない要件①②③

1 具備しなければ
ならない要件⑥

1 具備しなければ
ならない要件④⑤

1 具備しなければ
ならない要件⑦
30ページの「5 全体計画をより実効性の高いものにするために」

② 内容項目から見た別業

道徳教育全体計画別業 道徳科と各教科等の内容項目と時期の関連 内容項目別(6年)

内容\各教科等	道徳	特活			教科		
		学級活動(1)	学級活動(2)	クラブ 児童会 委員会	国語	社会	算数
A 主として 自分自身に 関すること	「道徳の判断、自律、自由と責任」	自主学習ノート【5月】 【B】規則、思いやり 【C】道徳の尊重 【D】生命の尊厳	学級の組織をつくらう【4月】				
	「正直、誠実」	山美の交換ノート【4月】 【B】礼儀 【C】道徳の尊重					
	「節度、節制」	心のブレーキ「くっそろえ」【5月】 【B】節度、節制 【C】道徳の尊重					
	「個性の伸長」	日本女性水上飛行機操縦士第1号「西崎キク」【4月】 【B】個性の伸長 【C】道徳の尊重		クラブ開始【5月】 クラブ発表会【2月】	「ぼくの世界、きみの世界」【10月】		
B 社会生活に 関すること	「希望と勇気、努力と強い意志」	道ひとてしに「おどろき」【1月】 【A】希望と勇気、努力と強い意志 【B】規則、思いやり 【C】道徳の尊重	学級活動の年間計画を立てよう【5月】 読書集会の計画を立てよう【10月】 卒業発表会の計画を立てよう【11月】 集会の計画を立てよう【2月】	将来のわたし【11月】 卒業までの計画【11月】	「迷う」【5月】 「伊能忠敬」【2月】 「17世紀に生きるわたしたち」【3月】		
	「真理の探究」	今日の学者「橋本」【16日】 【B】真理の探究 【C】道徳の尊重	夏休みの体験発表会【8月】 卒業文集の内容を決めよう【12月】	読書の輪を広げよう【10月】	「しるし」【5月】 「学んだことを生かして調べよう」【6月】 「随筆を書こう」【7月】 「マニラ」【9月】 「言葉カードを作ろう」【10月】 「ぼくの世界、きみの世界」【10月】 「意見を書こう」【10月】 「俳句」【11月】 「表現方法を選んで書こう」【11月】 「先輩の手紙」【12月】	「社会」の文化と新しい空間【9月】	「算数」の面積【4月】 「分数×分数」【5月】 「分数÷分数」【5月】 「文字式」【6月】 「比とその利用」【6月】 「図形の拡大と縮小」【7月】 「比」【8月】 「比と反比例」【10月】 「円の面積」【10月】 「小数×分数の計算のまとめ」【11月】 「立体の体積」【11月】 「おもしろい形を大きくしよう」【11月】 「場合を順序よく整理して」【11月】 「資料の調べ方」【12月】 「単位の調べ方」【12月】

(3) 全体計画（学級における指導計画）

※学級経営案の一部として作成する指導計画例

平成〇〇年度

学級経営案

〇〇市立〇〇小学校

第〇学年 〇組 担任 〇〇 〇〇

1 教育目標

学校教育目標	<input type="checkbox"/> やさしい子 <input type="checkbox"/> 学ぶ子 <input type="checkbox"/> 健康な子
学年目標	<input type="checkbox"/> 友達と助け合える子 <input type="checkbox"/> よく聞き、考えを深められる子 <input type="checkbox"/> 元気に運動できる子
学級目標	<input type="checkbox"/> 友達と助け合える子 <input type="checkbox"/> よく聞き、考えを深められる子 <input type="checkbox"/> 元気に運動できる子

2 学級経営の方針 一略—

3 学級の実態

(1) 在籍児童数 一略—

(2) 児童の実態 一略—

4 経営の重点 一略—

5 道徳教育の学級における指導計画

学級における児童生徒の道徳性の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・素直で優しく、何に対しても前向きに取り組む。 ・男女仲良く、言われたことはしっかりやりとげる。 ・自分の思いを主張するあまり、言葉がやや乱暴になってしまう。 	
担任・保護者の願い	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で考え行動し、節度のある生活をしようとする子になってほしい。 ・誰にでも思いやりの心をもって接する子に育てたい。 ・基本的な生活習慣をきちんと身に付けさせたい。 	
学級における道徳教育の基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ・誰に対しても、思いやりの心で接することができる。 ・約束を守ることの大切さを知り、進んできまりを守ろうとすることができる。 ・基本的な生活習慣を身に付け、最後まで粘り強くやりぬくことができる。 	
具 体 的 な 計 画	好ましい人間関係を築く方策	・教師と児童、児童と児童の望ましい人間関係を作り、教室を何でも話せる場にする。
	基本的な生活習慣	・埼玉県「規律ある態度」の達成目標を身に付けさせる。
	道徳科における指導	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見や考えをもち、自由に発表し話し合うことで自分の考えをさらに深めさせる。 ・一人一人の発言を大事にし、これからの自分の生き方についても考えさせる。
	道徳性をはぐくむ教室の環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の作品を大切に、落ち着きのある気持ちのよい教室環境をつくる。 ・生き物の世話をし、動植物を大切にすることを育てる。
	豊かな体験活動	・花の栽培、草花や虫、動物とのふれあいを通じ、自然に親しみ、生命あるものを大切にすることを養う。
	他学級・学年との連携	・縦割り活動や集会活動を通じ、多くの人や他の学年の人とふれあうことで友達の大切さ、協力を養う。
家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・学級通信、学年通信、連絡帳、懇談会、家庭訪問等を通じて、相互理解を図り、家庭との協力を体制を整える。 ・道徳科の授業公開を実施する。（〇月〇日） 	

6 振り返り（反省・改善点）

1 学期	2 学期	3 学期

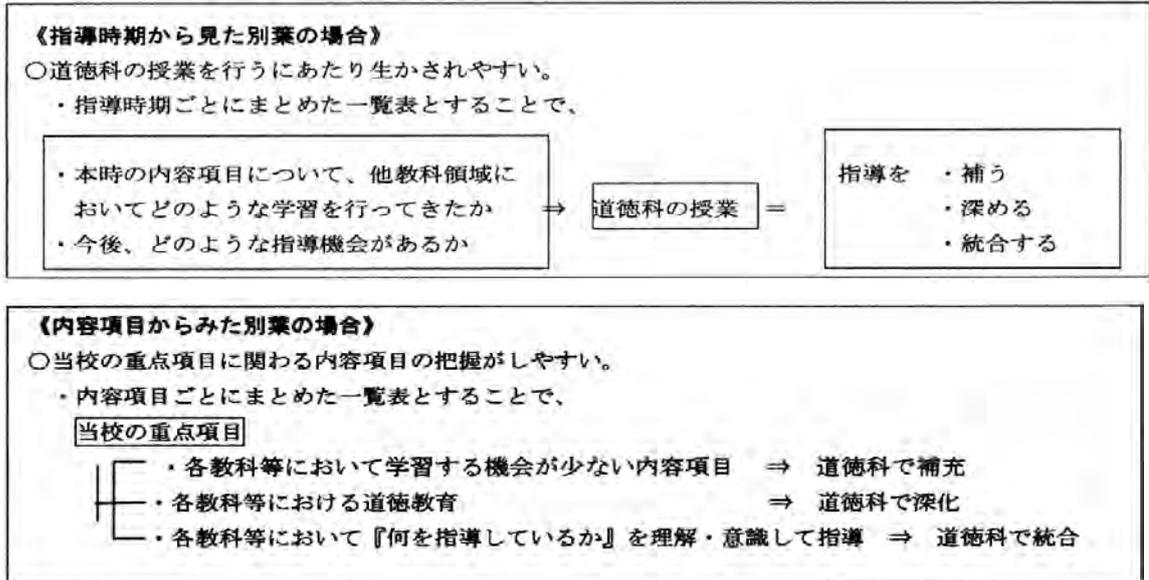
3 工夫、配慮事項等

(1) 全体計画（一覧表）の工夫、配慮事項等

- ① 校長が、明確な道徳教育の方針を決める。
- ② 学校の道徳教育の基本的な方針を全教師に示すため、学校教育目標の下に校長の道徳教育の方針を位置付ける。
- ③ 道徳教育推進教師を中心に全教師の協力指導体制を整え、道徳教育の重点目標を決める。
- ④ 学校の重点目標をもとに、低学年、中学年、高学年、特別支援学級の重点目標を設定する。
- ⑤ 各教科、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動等における指導の内容・時期については、別葉で表す。
- ⑥ 学校で道徳教育の目標を設定する場合、学校としてどんな子供を育成したいのかを明らかにする必要がある。そこで、教育関係法規の規定、時代や社会の要請や課題、教育行政の重点施策、学校や地域の実態と課題、教職員や保護者の願い、子供の実態と課題などを基に検討する。
- ⑦ 具体的な重点目標の設定後、重点目標のポイントが道徳のどの内容に関わるのかを明らかにし、学校の教育活動全体でどのような指導をするのかを明らかにする。
- ⑧ 全体計画は、学校における道徳教育の基本を示すものであるため、頻繁に変更することは適切ではないが、評価し、改善の必要があれば直ちにそれに着手できる体制を整えておくことが大切である。

(2) 全体計画（別業）の工夫、配慮事項等

- ① 全体計画の別業は、「指導時期」と「内容項目」から見て作成することができる。それぞれの特徴やよさを考え、学校の実態に合ったものを選択し、作成していく。
- ② 全教職員が道德教育の視点を理解した上で指導にあたる必要があるため、教科・教科外部会や各学年などに呼びかけ、全教職員の参画によって作成する。
- ③ 以下に示す「指導時期から見た別業の特徴やよさ」、「内容項目から見た別業の特徴やよさ」を参考に、各学校がそれぞれに相応しい別業を作成することが大切である。



4 全体計画に基づく指導における評価

(1) 全体計画（一覧表）に基づく指導による児童の道德性に係る成長の様子等

子供の心の成長が確かめられるような機能的な全体計画になっているかという視点から全体計画の見直しを図る必要がある。

右記に示す全体計画の評価は、道德教育の全体計画の中の重点目標に関わる子供の成長について評価を行っている例である。

このように、重点目標についての評価を全教師が毎学期末に行うようにする。道德教育推進教師を中心に道德部会で出された一人一人の教師の評価をまとめ、話し合う場を設けることによって、教職員の共通理解が一層強められる。

低学年・中学年・高学年別重点目標		
A 自分のは、自分でできる子 (A善悪の判断、自律、自由と責任) B 友達と仲良くし、親切にする子 (B友情、信頼) C みんなが使うものを大切に、約束やきまりを守る子 (C規則の尊重) D 植物にやさしく接し、生命の大切さに気づく子 (D生命の尊さ)	A 自分で考え、正しいと思うことは進んで行う子 (A善悪の判断、自律、自由と責任) B 誰に対しても思いやりの気持ちをもち、仲良く助け合う子 (B親切、思いやり) C 進んできまりを守り、人に迷惑をかけない子 (C規則の尊重) D 生命のあるものを大切に守る子 (D生命の尊さ)	A 強い意志で、正しい判断をして行動できる子 (A善悪の判断、自律、自由と責任) (A節度、節制) B 相手の気持ちや立場を考え、互いに尊重しあって生活する子 (B親切、思いやり) C 法やきまりを守り、自他の権利を大切に守る子 (C規則の尊重) D 生命の尊さを知り、自分や他の人々の生命を大切に守る子 (D生命の尊さ)

「全体計画重点目標に係る子供の成長の評価」

各学年の重点目標	評価の観点	評価 (◎○△)	評価記入欄 改善方法
(低学年) みんなが使うものを大切に し、約束やきまりを守る子。	①学校生活や各教科の学習において、みんなが使うものを大切にすることができたか。	○	約束やきまりを守る大切さに気づき、みんなのことを考えてものを大切に使えた。しかし、中には自分のことが優先になってしまう子もいる。引き続き道德科の学習を要しながら学校生活や各教科の学習で意図的に育てていきたい。
	②学校・地域行事や校外学習において、約束やきまりを守って行動することができたか。	◎	事前学習や高学年の姿を通して学んだことを生かし、約束やきまりを守って行動する姿が見られた。
	③互いの考えを大切に、協力し助け合いながら問題解決が図られていたか。	△	自分のことが優先になり、友達の考えを受け入れることが

(2) 評価の仕方 (評価の観点①の場合)

- ◎約束やきまりを守る大切さを理解し、「後から使う人が気持ちよく使えるように」「後から使う人の気持ちを考えて」など他の人を意識した言葉とともに行動が見られた。
- 約束やきまりを守る大切さに気づき、「なかよく、大切に」「約束を守って」「汚したり壊したりしない」など、みんなでするものをどのように使えばよいのかについて、具体的な言葉とともに行動が見られた。

△約束やきまりを守らず、自分本位でみんなが使うものを使っている。

(3) 全体計画別業に基づく指導による児童の道德性に係る成長の様子等

別業によって、全教職員が育てたい道德性や目指すべき児童像を共有することで、全教育活動において同じ道德教育の視点を意識した一貫した指導が行われるようになる。その際に、教師が心がけるべき

言動や指導方法などが共通化され、児童にとっても「よりよい心（行動）とは何か」が明確に示されるようになる。

「思いやり」は大切	⇒あらゆる場面で、どの先生も指導⇒どの先生からも認められる	=	良いことだ。
「廊下は歩こう」	⇒あらゆる場面で、どの先生も指導⇒どの先生からも褒められる	=	良い行動だ。

○児童の道徳性が育まれることによって

- *各教科等では、それぞれの活動への望ましい取組の姿勢が見られるようになる。
- *学級、学校の雰囲気や人間関係が、思いやりのある望ましい集団になっていく。

(4) 職員会議や校内研修において「本校の道徳教育の評価」について話し合う機会を設定する
 学期ごと、あるいは学年末等に、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育について、教職員が一堂に会して話し合う機会をもつことは極めて有効である。これが全体計画に基づいて行う道徳教育を評価し、改善することにつながる。
 道徳科の授業の様子（学習状況）や、児童の道徳性に係る成長の様子、道徳の重点目標に係る児童の様子等を議題にして意見を交わすことができるよう職員会議や校内研修を計画するとよい。

5 全体計画をより実効性の高いものにするために

<各学校が課題を解決するための具体的な視点をもった取組の全体構想や実施計画案>

学校が課題を明確に設定し、その解決に向けて道徳教育を積極的に推進しようとする場合は、全体構想や実施計画案等を作成し、評価、改善を図って、道徳教育を一層充実させていくとよい。

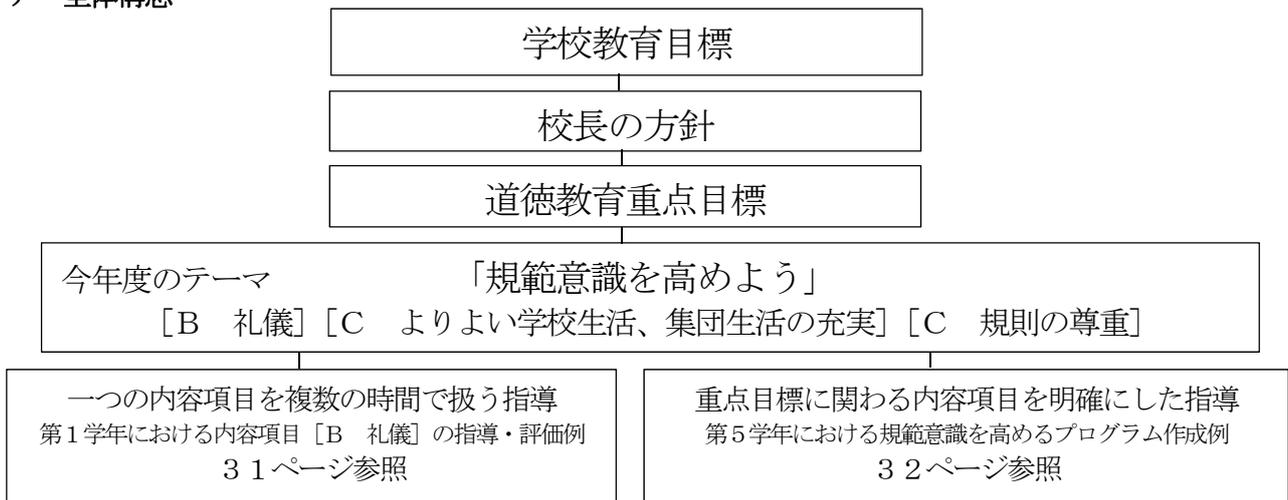
ここでは、「規範意識を高める道徳教育」「体験活動を生かした道徳教育」「家庭・地域社会との連携を重視した道徳教育」を例に挙げる。

(1) 規範意識を高める道徳教育

道徳教育においては、県で取り組む「規律ある態度」の育成をはじめ、人が互いに尊重し協働して社会を形成していく上で共通に求められるルールやマナーを学び、規範意識などを育むことが求められている。道徳科を要とした学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育が、その重要な役割を担っている。

その際、「一つの内容項目を複数の時間で扱う指導」や「重点目標に関わる内容項目を明確にした指導」を取り入れるなどの工夫が必要である。

ア 全体構想



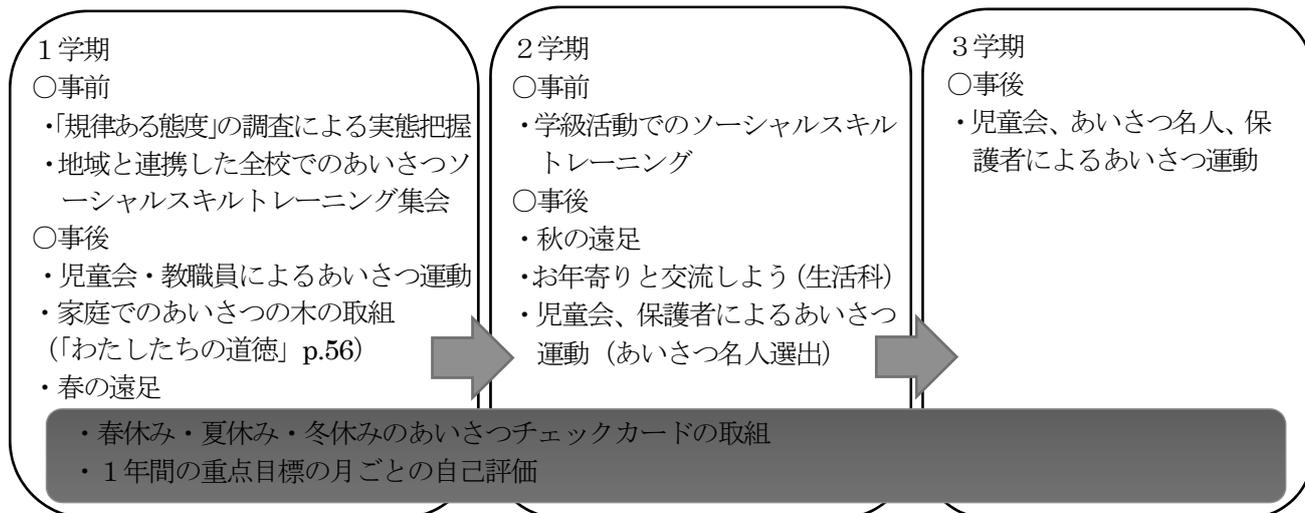
イ 「規範意識を高める道徳教育」に具備しなければならない要件

- ① 各学校の具体的な道徳教育の重点目標を設定し、目指す子供像を明らかにすることが大切である。
 (例：互いを尊重し合い、しっかりとした規範意識をもった人間に育てほしい)
- ② 道徳教育の重点目標のポイントを明確にする。
 (例：「規範意識」「よりよい集団生活」「礼儀」)
- ③ 道徳教育の重点目標のポイントに関わる道徳の内容項目を明確にする。
 (例：[C 規則の尊重]、[C よりよい学校生活、集団生活の充実]、[B 礼儀])
- ④ 当該内容項目に関わる道徳科以外の指導を明確にするために、各学習活動や日常生活の中で当該内容項目に関わりどのように規律ある態度を含めた道徳性を養う学習ができるかを押さえる。

ウ 一つの内容項目を複数の時間で扱う指導

(第2学年における内容項目 [B 礼儀] の指導・評価例)

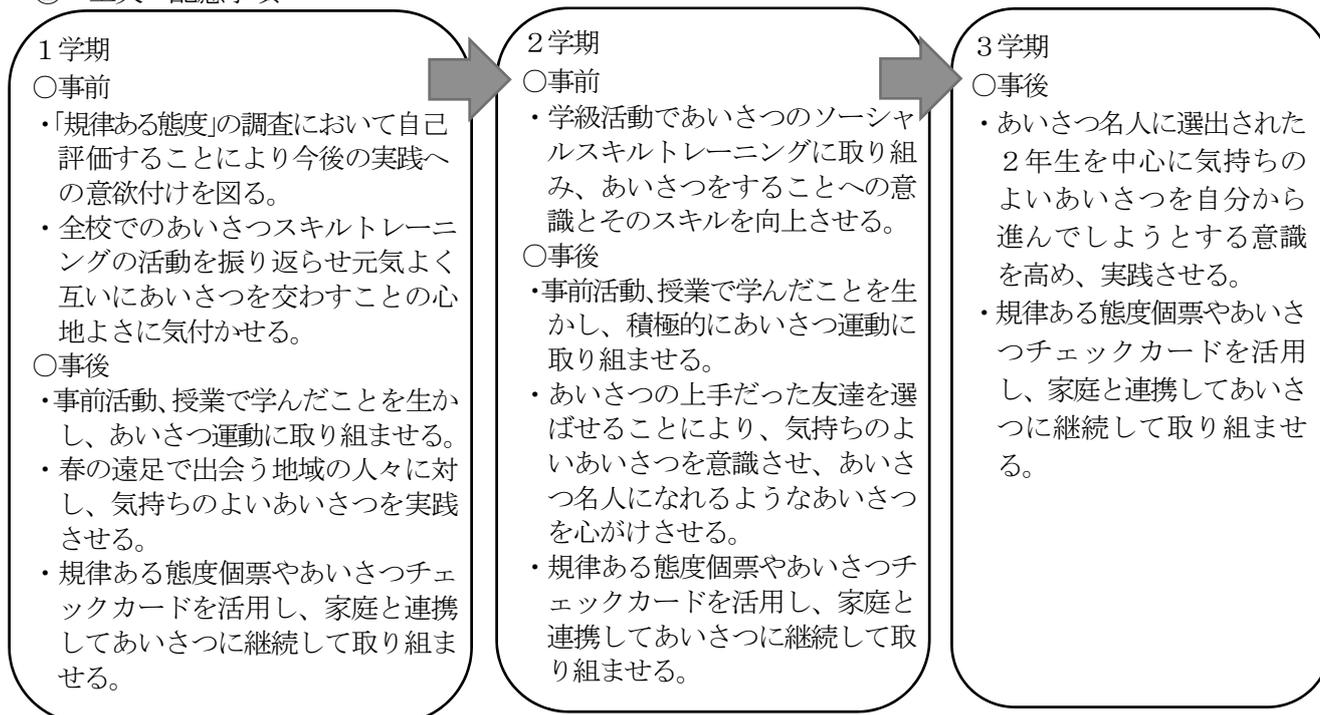
① 「規範意識を高める道德教育」(規律ある態度「あいさつ」) 計画



< 道德科の授業 >

- ・「きもちのよいふるまいを」[B 礼儀] (「わたしたちの道德」 p.54,55)
→ 毎日の生活の中でのたくさんのあいさつをふきだしの中に書き入れ、自分の体験やそのときの気持ちを振り返る活動を通して、はきはきとした気持ちのよいあいさつの大切さを自覚し、人に明るく接しようとする実践意欲を養う。
- ・「たびに出て」[B 礼儀] (「わたしたちの道德」 p.60)
→ けいたや登場人物のさるたちの役割演技などの体験的な表現活動を通して、身近な人への気持ちのよいあいさつ、動作に心がけ、明るく接する態度を育てる。
→ 授業公開をすることにより、保護者のあいさつに対する意識を高め、実践に向けての連携を深める。
- ・「えがおであいさつ」[B 礼儀] (「彩の国のどうとく」 p.21)
→ 主人公の「わたし」の立場や気持ちを捉え、自分ならどうするかを考えさせる活動を通して、自分から進んで広く地域の人々に明るく接する態度を育てる。

② 工夫・配慮事項



③ 児童の学習状況の評価と道徳性に係る成長の様子

<p>1学期 ○児童の学習状況の評価 (略) ○児童の道徳性に係る成長の様子 ・元気よくあいさつすることの大切さを理解している。 ・学校生活の中で元気よくあいさつしようとしている。 ・元気よくあいさつしたり、友達に明るく接したりしていている。</p>	<p>2学期 ○児童の学習状況の評価 (略) ○児童の道徳性に係る成長の様子 ・自分から進んで元気よくあいさつしようとしている。 ・学校だけでなく、地域・家庭でも意識してあいさつしようとしている。 ・時と場に応じた気持ちのよいあいさつを意識してしようとしている。 ・友達のあいさつの様子と自分のあいさつを比べながら、よりよいあいさつを意識している。</p>	<p>3学期 ○児童の学習状況の評価 (略) ○児童の道徳性に係る成長の様子 ・相手を意識して、気持ちのよいあいさつや動作、言葉遣いを心がけている。 ・年間を通して元気よくあいさつしたり、友達に明るく接したりしている。</p>
---	--	---

④ 評価に基づく改善のポイント

- ・地域・家庭を意識したあいさつ
- ・心と形が一体となったあいさつ

⑤ 改善した計画 (例)

- ・保護者参加型の授業
- ・年間を通して「あいさつ」への意識を高めさせる取組の工夫

「『規律ある態度』の調査の個票の活用」「自己評価カードの改善と活用」「地域・家庭との連携」

⑥ 考察

礼儀は、相手の人格を尊重し、相手に対して敬愛する気持ちを具体的に示すことであり、心と形が一体になって表れてこそ、そのよさが認められる。あいさつにおいても心が礼の形になって表れることであり、あいさつをすることによって、自分も相手も気持ちよく過ごせるようになる。

指導に当たっては、日常生活を送るために欠かせない基本的なあいさつなどについて、具体的な状況の下での体験を通して実感的に理解を深めさせ、外出時や公共の場での振る舞い方など社会との関わりの中での礼儀についても考えさせていく。

評価においては、児童の成長を見守り、努力を認め、励ますことにより、児童が自らの成長を実感し、更に意欲的に取り組もうとするきっかけとなるように年間を通して行っていく。特に個人内の成長の過程を重視した評価を行っていく。

エ 重点目標に関わる内容項目を明確にした指導

(第5学年における規範意識を高めるプログラム作成例)

① 「規範意識を高める道徳教育」計画

ねらい： 自分も相手も大切に、みんなが気持ちよく過ごせる学級をつくっていかうとする態度を養う。

各教科	国語科「意見こうかん会をしよう」 体育科「バスケットボール」 社会科「情報を生かすわたしたち」
教育活動 学校行事等	・親善球技大会 ・学級活動ソーシャルスキルトレーニング「あいさつ」 ・学級活動「よりよい学級にするために」
道徳科	[C よりよい学校生活、集団生活の充実] 「小川笙船」(私たちの道徳) →笙船の生き方について考えることを通して、自分の役割の意義を理解し、協力して主体的に責任を果たそうとする態度を育てる。 [B 礼儀] 「人間をつくる道—剣道—」(私たちの道徳) →礼儀に込められた思いや礼儀の意義について考えることを通して、礼儀正しくまごころをもって接しようとする態度を育てる。 [C 規則の尊重] 「きまりは何のために」(私たちの道徳) →明と鉄男の言動からきまりの意義について考えることを通して、きまりを守ることの大切

	さを理解し、進んできまりを守ろうとする態度を育てる。
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・宿題で、道徳の授業の内容について考えたことや実践したことを道徳ノートに記述する。 ・家族と一緒に取り組むあいさつ週間を実施する。 ・「私たちの道徳」を活用し、社会のきまりやマナーについて家族と話し合う。

② 工夫・配慮事項等

○ [C よりよい学校生活、集団生活の充実]

<p><各教科・教育活動等> 国語科「意見こうかん会をしよう」 自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、自分と異なる意見や立場も広い心で受け止めることを通して、互いの違いを認め合い理解することでよりよいものが生まれるといったよさについて考えさせる。 学級活動「よりよい学級にするために」 学級生活をよりよくするためのきまりをつくり、そのきまりを守る活動を通して、集団を支えているのは自分たち自身であるということに気付かせ、集団における自分の役割について考えさせる。</p>	<p><家庭との連携> 授業後、家庭で「私たちの道徳」p.140～p.145を読み、集団の中での自分の役割について考えさせ、p.143に記入する。その際、保護者の方に協力をお願いし、家族の一員としての自分の役割も自覚できるような声かけをしてもらう。</p> 
--	--

○ [B 礼儀]

<p><各教科・教育活動等> 体育科「バスケットボール」・親善球技大会 試合前や試合後の礼を通して、礼儀作法の形にこめられた相手を尊重する気持ちについて考えさせる。 学級活動「あいさつ」(ソーシャルスキルトレーニング) 気持ちのよいあいさつの仕方について体験的に学ぶことを通して、相手の立場や気持ちを考えた心のこもった接し方について考えさせる。</p>	<p><家庭との連携> 授業後、家庭に協力をお願いし、1週間家族で決めたあいさつの目標にむけて取り組み、日常生活でのあいさつの習慣化を図る。</p>
--	--

○ [C 規則の尊重]

<p><各教科・教育活動等> 社会科「情報を生かすわたしたち」 情報活用のルールやマナーについて考える活動を通して、法やきまりのもつ意味などについて考えさせる。</p>	<p><家庭との連携> 授業前、家庭で「私たちの道徳」p.122～p.123を読んで、社会のきまりやマナーについて家族と話し合うことで、社会生活上のきまりや基本的なマナーやモラルなどの倫理観を育てていく。</p>
--	--

③ 児童の学習状況の評価と道徳性に係る成長の様子等

<p>[C よりよい学校生活、 集団生活の充実] ○児童の学習状況の評価 (略) ○児童の道徳性に係る成長の様子 ・集団をよりよいものにしていくためには、集団の中での自分の役割を考えて、一人一人が自分の責任をしっかりと果たすことが大切であると気付いている。</p>	<p>[B 礼儀] ○児童の学習状況の評価 (略) ○児童の道徳性に係る成長の様子 ・礼には相手を敬うという意味があることに気づき、一つ一つの礼儀に心を込めたいという思いをもっている。</p>	<p>[C 規則の尊重] ○児童の学習状況の評価 (略) ○児童の道徳性に係る成長の様子 ・きまりは、みんなの権利を守るためにあることに気づき、自分の行動を振り返り、きまりやマナーを守ることの大切さを考えている。</p>
--	--	--

④ 評価に基づく改善のポイント

- ・活動後の児童の感想に、相手の立場を尊重する大切さに関わる内容が多かったため、関連する内容項目である、[B 相互理解、寛容]についても重点を置いた指導を行っていく。
- ・児童の意識は、活動ごとに終結するものではなく、一つ一つの活動が、相互に関連し合っているという意識をもち取り組むことで、内容項目のつながりや、重点目標の意識づけができる。特に、特別活動の役割に重点をおいた指導につなげたい。

⑤ 改善した計画(例)

- ・ねらいに関わる内容項目の選択
[C よりよい学校生活、集団生活の充実] [B 礼儀] [C 規則の尊重] に [B 相互理解、寛容] の内容項目を道徳科の授業に取り入れる。
道徳科の授業では、「ブランコ乗りとピエロ」(「私たちの道徳」)の教材を活用し、サム(相手)の立場を考えて受け入れることのできたピエロの思いを考えることを通して、自分と異なる意見や立場を受け入れることの難しさやよさを知り、広い心で相手を大切にしようとする心情を育てる。

総合的な学習の時間「福祉の心を育てよう」と関連させ、互いの違いを認め合い理解しながら、他者を尊重する態度を育てていく。

- ・ねらいに関する児童の意識が連続するような事前事後の学習活動等の検討
(体験活動や道徳的实践の場でもある特別活動の位置付け等)

⑥ 考察

道徳における学習は長期的・総合的視点からの評価と指導が必要であるため、重点目標（規範意識）に絞って取り組むことは効果的である。

規範意識を高めるというねらいのもと、特別活動や総合的な学習の時間で実践的・方法的学習、各教科で知的・実践的学習を重視するとともに、要としての道徳科で内面を耕すことで、道徳教育を推進することができる。

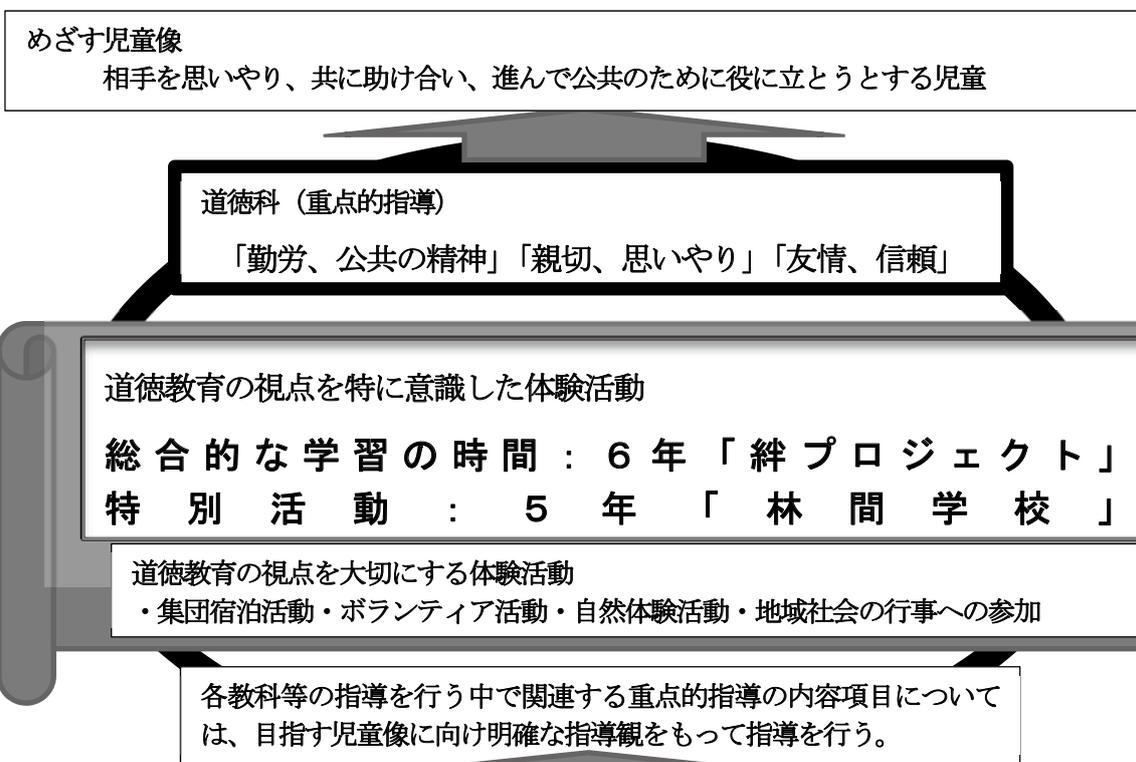
様々な道徳的課題（いじめ、情報モラル、環境問題、国際化等）に応えられるような学習プログラムを作成し、学校全体で重点的に取り組むことができる。

(2) 体験活動を生かした道徳教育

道徳性を養うための配慮事項に、豊かな体験活動を充実させることが求められており、児童の心に響く直接体験を大切に活動等を積極的に取り入れるよう努める必要がある。

体験活動を重視した道徳教育を推進するためには、その意義や役割を明確にし、全教職員の共通理解のもとで進めていくことが大切である。また、目指す児童像に効果的に到達するために道徳教育の視点を特に意識した体験活動を選択して進めていくことが重要である。

ア 全体構想



児童の実態

- ・言われたことに対してよく働ける児童であるが、進んで公共の役に立つことをしようとまでは意識できていない。
- ・友達と仲よくできる児童が多いが男女仲よくできるまでには到っていない。
- ・人に対して親切にすることはできるが相手の立場に立って親切にするまでには至っていない。

イ 「体験活動を生かした道徳教育」に具備しなければならない要件

- ① 児童の実態を把握し、目指す児童像を明らかにする。
- ② 学校や地域の特色を生かした体験活動を決める。
- ③ 道徳教育の視点を特に意識し、意図的に行う体験活動を決める。
- ④ 内容及び時期を明確にした実施計画を作成する。
- ⑤ 実施するための学校としての指導體制をつくる。
- ⑥ 事前・事後指導との効果的な関連を図り、体験を生かした道徳科の授業を実施する。

ウ 総合的な学習の時間における体験活動の例

- ① 6年生 「絆プロジェクト」
- ② 目標 (※抜粋)
 - ・学習方法に関すること
活動の後に振り返り、成果と課題を踏まえて、さらによりよく次の活動に取り組むことができる。
 - ・自分自身に関すること
高齢者や幼児との交流を通して、他者と関わる喜びやボランティア精神の大切さを考えることができる。
活動を通して福祉の精神を感じ取り自分にできることを考えることができる。
- ③ 評価
 - ・高齢者と触れ合い、その人の願いや喜びを知ることができる。
 - ・活動を通して福祉施設の大切さやそこで働く人々の思いを知ることができる。
 - ・自分も福祉活動に参加できることに気付くことができる。
 - ・高齢者に接する時の態度やマナーについて考えることができる。

	○総合的な学習の時間の 学習内容 ☆評価	道徳教育の視点 (★内容 ・工夫配慮事項)	道徳科
ふれる	○単元の学習内容を知る。 単元の趣旨と活動の概要を知る。 ○高齢者施設について調べる。 ○高齢者施設の方の話を聞きどのような活動ができるかを考える。 ☆福祉施設の役割や働く人々の思いを調べまとめることができる。	★C 規則の尊重 ・高齢者施設からパンフレット等をもっていき、施設でのきまりや、マナーについて具体的に考えられるようにする。 ・分からないことは、高齢者施設で働いている方に質問をし、自分たちができる活動を考えさせる。	C 規則の尊重 「法やきまりを守って」を導入で活用し、問題意識をもたせる。 出典：「私たちの道徳」
つかむ	○イメージマップを作成しその中から自分達のできそうな内容についてピックアップする。 ○身の回りにいる高齢者からどんな活動が喜んでもらえるかを調べてまとめる。 ○イメージマップと合わせて具体的に活動可能な内容をまとめる。 ○自分の活動する内容を決める。 ○活動内容をいくつかに絞り全体で発表する。 ☆友達との意見交換を通して自分の考えを表現している。 ☆課題を解決するために適切な活動を決めることができる。	★B 親切、思いやり ・イメージマップから活動内容を絞る際に、お年寄りの立場に立って考えながら決めさせる。 ★B 相互理解、寛容 ・自分の意見を無理に通そうとするのではなく、他の人の意見も聞きながら、話し合いを進めさせる。	B 親切、思いやり 「相手の立場に立って親切に」を活用する。 出典：「私たちの道徳」 B 相互理解、寛容 「ブランコ乗りとピエロ」を活用し、異なる意見や立場を大切にすることについて主人公の生き方を通して考える。 出典：「私たちの道徳」
活動する	○活動内容を選択し、活動グループを作る。 ○具体的な活動に向けてめあてや役割分担や活動内容を考え決定する。 ○リハーサルを行う。 ○意見をもとに修正する。 ○高齢者施設で活動する。 ☆自分も福祉活動に参加できることに気付き、行動しようとしている。 ☆高齢者に接するときの態度やマナーについて考え、マナーの大切さが分かる。	★A 希望と勇気、努力と強い意志 ・計画したことに対して、勇気をもって活動させ、多少失敗しても、最後までやり遂げさせるようにする。 ★B 礼儀 ・高齢者と実際に接するとき、正しい言動がとれるよう事前に調べたことを思い起こさせるようにする。 ★C 勤労、公共の精神 ・社会に奉仕することの充実感を味わい、その意義を理	A 希望と勇気 「道ひとすじに」を活用し、自分の目標に向かって努力することの大切さを考える。 出典：「彩の国の道徳 夢にむかって」 B 礼儀 「江戸しぐさに学ぼう」を活用し、今までの自分の振る舞いに真心が込もっていたかを振り返る。 出典：「私たちの道徳」 C 勤労、公共の精神

	☆高齢者と触れ合い、その人の願いや喜びを知ることができる。	<u>解し、これからも公共の役に立とうとする気持ちを高められるようにする。</u> →道徳科で振り返る	「光る歩道」を活用し、みんなのために働くとはどういうことなのかを考える。 出典：「彩の国の道徳 夢にむかって」
まとめ	○自分達の活動についての振り返りをする。 ○自分達の活動の報告をする。 ○施設の方や相手をしてくれた人達へ御礼の手紙を書く。 ☆既習の学習を生かして、調べたり考えたりしたことを表記したり、発表したりすることができる。	★C 勤労、公共の精神 ・勤労が、自分のためだけでなく、社会生活を支えるものであることに気付かせる。 ★B 感謝 ・お世話になった高齢者施設の方へ、感謝の気持ちが伝わるお手紙を書かせる。	C 公共の精神 「公共のために役立つことを」の「三方良し」を導入で活用する。 出典：「私たちの道徳」 B 感謝 「支え合いや助け合いに感謝して」の「ありがとう」を導入で活用する。 出典：「私たちの道徳」

④ 評価に基づく改善のポイント

・体験活動を生かした道徳科の授業を展開する。

⑤ 改善した計画（例）

・道徳科の授業

B 親切、思いやり「相手の立場に立って親切に」を活用し、お年寄りの立場に立って考えた体験を振り返って自分の行動について話し合う。（出典：「私たちの道徳」）

C 勤労、公共の精神「光る歩道」を活用し、みんなのために働くとはどういうことなのかを高齢者との触れ合いを振り返りながら考える。（出典：「の国の道徳 夢にむかって」）

⑥ 考察

体験活動を効果的に進め、道徳性をより効果的に高めるためには経験したことが自分にとって何だったのか内省することである。そのことにより活動したことが整理され、自分の生き方を改めて考え、実際のよりよい行動につなげることができる。

体験活動を生かした道徳教育を進めていくためには道徳的視点を体験活動の中に明確に位置付けることでより充実したものになる。総合的な学習の時間では、人と関わることができるようにし、関わる相手も多様なものとなるように計画して、「親切、思いやり」「勤労、公共の精神」についても考えさせていく。また、評価において、児童がいかに成長したかを積極的に受け止め、励ますような個人内評価を重視していく。

エ 特別活動（学校行事：集団宿泊的行事）における体験活動の例

① 題材名 5年生「林間学校を有意義な活動にしよう」

② 目標

自然の中での集団宿泊活動を通して、自然や文化に親しむとともに、基本的な生活習慣や公衆道徳などについての体験を重ねることで、お互いを思いやり、ともに協力し合い、支え合うなどの望ましい人間関係を築く態度を育てる。

③ 評価規準

・集団活動や生活への関心・意欲・態度

自然や文化などに関心を持ち、互いを思いやり、積極的に遠足・集団宿泊的行事に取り組もうとしている。

・集団の一員としての思考・判断・実践

学校や学年の一員としての自覚を持ち、平素と異なる生活環境での望ましい人間関係や行動の在り方などについて考え、判断し、協働して実践している。

・集団活動や生活についての知識・理解

遠足・集団宿泊的行事の意義や、校外における集団生活の在り方、公衆道徳などについて理解している。

④ 活動の概要

本活動は、2泊3日の集団宿泊活動を通して、自然に親しませるとともに、集団における規律、協力、助け合いの心を育て、集団宿泊活動を通して、よりよい人間関係を築くことを目的として行っている。活動内容としては、現地についての班別オリエンテーリング、カレーライス作り、森林に囲まれたキャンプファイヤー、ダムまでのハイキング、星空に囲まれた天体観測、地元の食材を使ったおやつ作りなどが組まれている。また、5分前行動、来た時よりも美しく使うマナーの徹底、しっかり食べてしっかり寝るなど、楽しい宿泊活動の中にも規律をしっかり守ることを大切にしている。

特別活動（主な活動）	道徳の視点（★内容・工夫配慮事項）
<p>共同して1日目</p> <p>1 班別オリエンテーリングをしよう。</p> <p>2 カレーライスを作ろう。</p> <p>3 キャンプファイヤーを成功させよう。</p> <p>4 就寝の時刻を守ろう。</p>	<p>★B 友情、信頼</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男女協力して、ポイントをさがせるように働きかける。 ・班は事前に人間関係を考慮して、男女混合にする。 ・安全面に配慮する。 <p>★C よりよい学校生活、集団生活の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カレーを作る人、ご飯を炊く人、火を管理する人など、それぞれの役割の大切さに気付かせる。 ・それぞれの担当が頑張りに感謝できるようにする。 <p>★C よりよい学校生活、集団生活の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラス関係なく、相手のことを考えて出し物を見たり、ダンスを楽しんだりする。 ・日頃から、男女が自然と手をつないだり、ペアを作ったりすることができるようにしておく。 <p>★A 自主、自立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時刻を守って就寝する意義について考えさせる。 ・きちんと寝ることは、友達や自分の体調を守ることであり、明日のハイキングを安全に実施することにつながることを考えさせる。 ・事前指導で、きちんと寝ることの大切さを指導する。
<p>2日目</p> <p>1 ハイキングに行こう。</p> <p>2 家族にハガキを書こう。</p> <p>3 天体観測をしよう。</p>	<p>★B 思いやり、感謝</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男女関係なく、みんなで協力して安全にハイキングできるように意識をもたせる。 ・遅い子のペースを考えて歩くように指導する。 ・荷物を持ったり、様子を見て休憩を入れたりするように働きかける。 ・励ましの言葉を使うことのよさを考えさせる。 <p>★D 自然愛護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林の中を歩きながら、山の自然の美しさに感動する気持ちを大切に作る。 ・自然環境を大切にしたいという気持ちを育てる。 <p>★C 家族愛、家庭生活の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・林間学校に来ている様子を伝え、家族に来させてもらったことへの感謝の気持ちが伝えられるようにする。 <p>★D 感動、畏敬の念</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班で協力して、望遠鏡を設置する。 ・夜空に広がる星の美しさに感動する気持ちを大切に作る。 ・人間の力を超えた、宇宙の偉大さを感じる心をもつ。
<p>3日目</p> <p>1 お世話になった施設を掃除し、後片付けをしよう。</p>	<p>★C 勤労</p> <ul style="list-style-type: none"> ・限られた時間の中で、きれいにするにはどうしたらよいか清掃の手順を明確にする。 ・3日間使わせていただいたという気持ちや、次に使う人の気持ちになって掃除をする。 ・友達と協力して、担当の場所を進んで清掃する。

⑤ 評価に基づく改善のポイント

- ・1日目、2日目、3日目とそれぞれ感じたことを書く時間を設けている。道徳の視点を意識したワークシートを工夫し記入させ、どの児童が、どんな場面で、どんな感じ方をし、どう変容したのかがわかるようにする。

⑥ 改善した計画

- ・ワークシートの文言を、道徳の視点を意識したものに改善した。

<p>ワークシートの文言例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班別オリエンテーリングは男女協力して活動できましたか。 ・自分の役割を考えてカレーライス作りができましたか。 ・ハイキングに行ってみてどんなことが大事だと感じましたか。 ・その他で自分が成長したと感じた事やこれからに生かしていきたいことを教えてください。

⑦ 考察

多様な人間関係の中で他の人との人間的な触れ合いを豊かにもつことによって「親切、思いやり」「友情、信頼」に関わる道徳性を高めていくことができる。

学校行事の体験活動で重視すべき活動は、事前にそのねらいや意義を踏まえて活動のめあてや活動計画を話し合っ決めて活動や、活動後に体験したことを振り返り、視点を明確にして自分の言葉でまとめたり、発表したりする活動である。学校行事を通して、体験したことをより豊かに表現する力や体験したことについて、自分の思いを込めて伝える力も育成することができる。

さらに、書く活動を取り入れることにより、自分の思いと向き合う時間がうまれる。頭の中で考えたことを、文字にして自分の思いを見つめることで、感じたことや思ったことをより深くすることができる。また、書いたものが後で見えてわかるように、発達の段階に応じて「ノートにする」「ファイルにする」など工夫をして保存しておくといよい。

(3) 家庭や地域社会との連携を重視した道徳教育

自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性は、学校生活だけでなく家庭や地域社会においても、児童の具体的な行動を支えるものである。そのため学校は、家庭や地域社会との連携、協力を密にし、共通理解を図ることによって、道徳教育を強化させることが大切である。

ア 全体構想

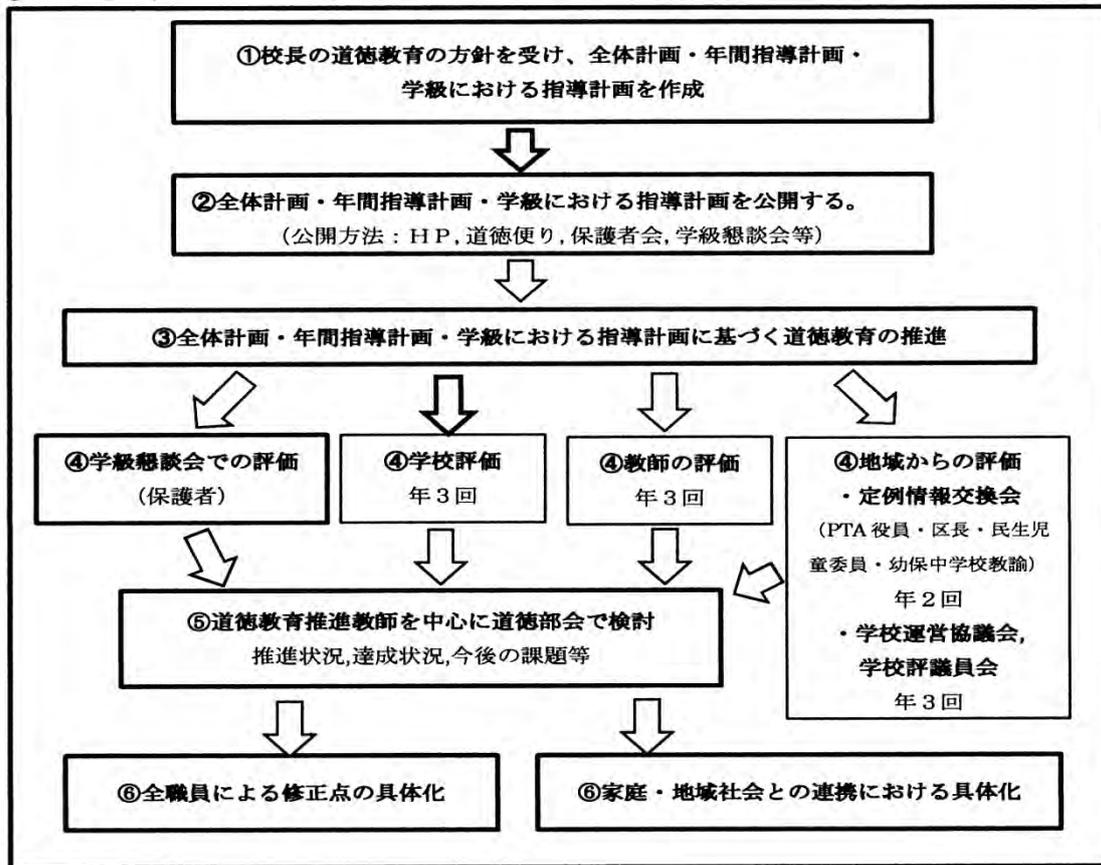
道徳教育の全体計画の「家庭・地域社会との連携」を受け…



イ 家庭や地域社会との連携を重視した道徳教育の評価

道徳科の妥当性、信頼性等の確保のためには、保護者はもちろんのこと地域の方の理解を得ることが重要である。そのためには、「家庭と地域社会との連携 全体構想」の実践だけではなく、評価においても計画的に取り組む必要がある。

家庭や地域社会との連携を重視した道徳教育の評価計画



ウ 参考

- 学校行事の目標の中に、道徳の視点を取り入れる
- 学校行事の目標に道徳の視点を入れた目標を掲げ、意図的・計画的に取り組むことにより、全教職員の道徳教育の意識を高めることができる。学校行事に向けた様々な取組の中で道徳教育を実践することで、児童の道徳性をさらに養うことができる。

平成〇〇年度 〇〇小学校 春のなかよし遠足について	
1	目的
○	異学年集団（縦割りグループ）で活動することにより、規律を身につけ、自主性、思いやりの心を育てる。
○	△△△の自然に触れ、自分が住む町への親近感や関心を持たせる。
○	自分の足で歩くことによって、健康の増進と体力の向上を図る。
	(道徳教育の視点)
○	高学年は、下級生の立場に立って親切にすることによって、思いやりの心を育む。
○	低学年は、上級生への感謝の気持ちをもつとともに、自分も上級生のように学校のためのために進んで働こうという心を育む。
○	自分が住む場所にある自然の素晴らしさや不思議さを感じ取る体験をとおして、自然を大切にすることを育てる。

6 考察

学校における道徳教育は、その目標である道徳性を養うために、道徳科を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであることから、道徳科はもとより、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、児童の発達の段階を考慮して、適切な指導を行わなければならない。（小学校学習指導要領第1章総則）つまり、道徳教育を充実させるためには、全体計画（別業を含む）が必要性な理由がここにある。

道徳教育を意図的・計画的に実施するためには、実効性のある全体計画（別業を含む）、課題解決のための全体構想、実施計画案を作成することが極めて重要であることを改めて確認しておきたい。

参 考

通知表、指導要録に記載する道徳科の評価欄の記入例

道徳科における評価の基本的な考え方については、『『特別の教科 道徳』の指導方法・評価等について(報告)』(平成28年7月22日 道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議)に示されている。

特に、道徳科の特質を踏まえて確認しておかなければならないことは、次のとおりである。

- 数値による評価ではなく、記述式とすること
- 個々の内容項目ごとではなく、大きくくりなまとまりを踏まえた評価とすること
- 他の児童との比較による評価ではなく、児童がいかにか成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価として行うこと
- 学習活動において児童がより多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分との関わりの中で深めているかといった点を重視すること
- 道徳科の学習活動における児童の具体的な取組状況を一定のまとまりの中で見取ること

ただ、気を付けておかなければならないことは、「個々の内容項目ごとではなく、大きくくりなまとまりを踏まえた評価とすること」について、これは、授業したすべての内容項目を一つ一つ評価することは道徳科の特質から考えて好ましいとは言えないことを述べたものであって、道徳科の授業で顕著な発言があったことを記載してはいけないことを意味しているものではない。改めて確認しておく必要がある。

【通知表、指導要録の記載例】

(道徳性に係る成長の様子を踏まえて記載した例)

- 授業の中で「相手のために思った行動とは、すべてを正直に言うことではなく、相手を見守ることも友情には必要だ」と発言し、多くの友達を納得させていました。友達を思う気持ちが育ってきています。
- 生命の大切さを取り上げた授業の振り返りでは、亡くした祖父の思い出を語りながら、おじいちゃんの分まで一生懸命生きたいとみんなの前で発表していました。とても感心しました。
- 正直・明朗について考える授業の最後に、自分が教材の登場人物と似た経験をした時に、勇気をもって謝ったことを発表し、みんなに拍手をされていました。
- 思いやりについての友達の意見を聞くうちに、手助けするだけではない様々な思いやりの形に気付きました。「これからも友達や下級生を見守っていきたい」と道徳ノートに記入していました。
- 誠実について考えていく中で、「自分の心にうそをつかない」という自分なりの結論にたどり着き、これからの生活に生かしていこうとする記述が見られました。
- 生命はなぜ大事なのかを考える授業では、自分の考えをもち、友達と様々に議論する中で、「生命のつながり、かけがえのない生命」だから大事であると納得していました。
- 本当の親切とは何かを考えた授業の時、始めは「手伝うこと」「何かしてあげること」が親切だと言っていた〇〇さんでしたが、学習していく中で、「見守ること」も親切であるということに気付くことができました。
- 生命に関する授業では、お家の人からの手紙を何度も読み返し、涙を浮かべていました。生まれてきてよかった、嬉しかったという思いのこもった手紙を書いていました。
- 生命について考える授業を行った後には、生命を大切にすることは自分のためだけでなく、自分を大切に育ててくれた家族のためでもあり、生命はつながっているから自分が生命を大切にすることがこれからの生き方も大切にするとする深い考えになりました。
- 自由について考える授業では、ペアやグループでの話し合う活動を通して、自由とは自分勝手とは違い、周りのことも考えた自由が大事だとしっかりと考えていました。
- 「命の大切さについて考える」授業では、新聞記事などを活用して調べ、命はかけがえのないものであることに気付きました。また、友達の発言を聞き、「命のつながり」についても考えを広げることができました。

(学習状況を中心に記載する例)

- 主人公と自分を重ね合わせて考えることができました。つい悪口を言うてしまうことが自分にもあると気付き、これからの自分の在り方を前向きに見つめることができました。
- 主人公に自分の姿を重ねたり、自分の気持ちと向き合ったりしながら、積極的に発言する様子が見られました。友達の意見に耳を傾け、考えを深めることができました。
- ペアやグループでの話し合いでは、いつも積極的に考えを述べています。〇〇さんの発言から新しい見方が広がります。
- 道徳科の学習では、いつも積極的に発言しています。道徳ノートにも、授業を通して自分が考えたことや、考えが変わったことなどをしっかりと書いています。
- 話し合いでは、友達の意見をよく聞き、友達の意見から自分の考えに取り入れられるところを探し、よりよい考えにしていこうと積極的に参加していました。
- 自分の考えを進んで発言し、友達の意見もうなずきながら聞いていました。友達の意見を参考に自分の考えを深めていました。

埼玉県小学校教育課程指導・評価資料作成協力委員（道徳）

（◎は部会長、○は副部会長を示す）

◎土井	雅弘	坂戸市立入西小学校校長
○高橋	博美	戸田市立笹目東小学校校長
	清水 淳	朝霞市立朝霞第七小学校教諭
	鈴木 美恵	和光市立新倉小学校教諭
	梅沢 智代	川越市立寺尾小学校教諭
	鈴木 泉衣	所沢市立北野小学校教諭
	結城 淳子	狭山市立狭山台小学校教諭
	篠原 麻衣	深谷市立川本北小学校教諭
	徳茂 ^五 希子	皆野町立皆野小学校教諭
	高橋 敦子	加須市立加須小学校
	須賀 由美	八潮市立八條北小学校教諭
	滝沢 美雪	三郷市立吹上小学校教諭
	船越 一英	和光市教育委員会指導主事
	佐藤 香織	川島町教育委員会指導主事
	本多 斎士	深谷市教育委員会指導主事
	清水 良江	総合教育センター指導主事
	鈴木 孝雄	西部教育事務所指導主事

【事務局】

大根田	頼尚	市町村支援部義務教育指導課長
増田	正夫	市町村支援部義務教育指導課教育指導幹
安元	信幸	市町村支援部義務教育指導課指導主事
磯山	貴則	市町村支援部義務教育指導課指導主事

発行 埼玉県教育委員会（平成29年3月）

編集 埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課

〒330-9301 さいたま市浦和区高砂3-15-1

TEL 048-830-6748 FAX 048-830-4962

E-mail a6750@pref.saitama.lg.jp

